

『社会福祉学(New Liberal Arts Selection)』平岡公一、杉野昭博、所道彦、鎮目真人(有斐閣)

2014 年度～

科目概要

本科目では、社会福祉の概念と対象、その方法について、子ども・障害・高齢・貧困といった各分野における人々の生活構造とその実際から理解する。また、社会福祉に関する具体的な制度内容と援助技術について学習し、社会福祉の役割について理解を深めるとともに、今日的な課題を考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 社会福祉の概念・対象・方法論について理解する。
2. 社会福祉の役割について理解を深める。
3. 社会福祉の今日的課題についての考察を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会福祉とは何かー概念・対象
2. 社会福祉の歴史的変遷
3. 社会福祉の諸制度とその実施体制
4. 社会福祉の専門性の構造と倫理ー援助方法論
5. 児童の生活と福祉
6. 障害者の生活と福祉
7. 高齢者の生活と福祉
8. 貧困・低所得者の生活と福祉
9. 社会福祉の動向と課題

参考文献

『厚生労働白書』各年度版 ☆

『福祉社会ハンドブックー現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会 2013(中央法規出版)

『社会福祉キーワード 補訂版』平岡公一編 2002(有斐閣)

『障害のある方への接遇マニュアル』東京都心身障害者福祉センター編集 2006 改訂版 ☆

『発達障害者支援ハンドブック 2015』東京都保健福祉局 2015 ☆

『良い支援?』寺本晃久、岡部耕典、末永弘、岩橋誠治著 2008(生活書院)

※☆印の付いているものは、ウェブページよりダウンロードが可能です。

■レポート評価

1. 課題内容を適確に理解しているか
2. 論理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点にもとづいて、評価する。

■科目終了試験評価

テキストを基礎とした学習が進められ、キーワード(定義の確認)や歴史的変遷に関する理解が得られているかを評価する。また、上記に加えて論述の論理的展開や考察が適切かどうかについても評価する。なお、テキストの事項検索にある青字は、重要ワードであることを申し添える。

使用テキスト

配本年度

『学ぶ・わかる・みえるシリーズ 保育と現代社会 保育と児童家庭福祉』

櫻井奈津子編(みらい) 2014年度～2016年度

『学ぶ・わかる・みえるシリーズ 保育と現代社会 保育と児童家庭福祉【第2版】』

櫻井奈津子編(みらい) 2017年度～2019年度

『保育と子ども家庭福祉 学ぶ・わかる・みえるシリーズ』櫻井奈津子編(みらい)

2020年度～

科目概要

児童福祉法とそれに関連する施策が体系化されていると言われているなかで、子ども虐待や貧困、非行などの問題を中心に、子どもとその家庭を取り巻く状況は深刻さの度合いを増し、それに伴って子ども家庭福祉制度のさらなる整備と、それに関わるべき専門職種の役割がきわめて重要なものとなっている。

この科目は、子どもにとって何よりも大切な環境である家庭の現状を踏まえて、子どもとそれを取り巻く家庭に対する福祉的な支援策がどのように制度化されているか、そして今後さらにどのように整備されるべきかを学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子ども家庭福祉とは何か、子ども家庭福祉の目的を理解する。
2. 子どもと家庭を取り巻く問題について具体的事例を通して学ぶ。
3. 子ども家庭福祉の理念を踏まえ、子どもの権利について理解する。
4. 子ども家庭福祉制度の発展過程について理解する。
5. 子ども家庭福祉施策の現状を学び、その課題について考察する。
6. 受講生が子ども家庭福祉に関わる支援策や法制度を自らの頭で考察し、説明することができる。
7. 受講生が学んだ知識を踏まえ、子ども家庭福祉に立ち向かう意欲と実践的姿勢を持てるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 子どもと家庭を取り巻く問題
2. 子ども家庭福祉の理念と子どもの権利
3. 子ども家庭福祉制度の発展過程
4. 子ども家庭福祉の法体系と実施機関
5. 社会的養護の問題(子ども虐待、貧困、非行)
6. 障害のある子どもの福祉
7. ひとり親家庭への福祉
8. 子ども家庭福祉の専門職種と関係機関との連携

参考文献

杉山春『ルポ虐待—大阪二児置き去り死事件』ちくま新書 2013年

保育学校現場での虐待対応研究会編著『保育者・教師に役立つ子ども虐待対応実践ガイド』東洋館出版社 2013年

評価基準

■レポート評価

課題について、どれだけ自分自身の課題として捉え、問題意識をもって論述しているかどうかをもとに評価します。

■科目終了試験評価

出題の主旨を理解し、基本的な知識として、身に付いたものになっているかどうかをもとに評価します。

『学ぶ・わかる・みえるシリーズ 保育と現代社会 保育と児童家庭福祉【第2版】』

櫻井奈津子編(みらい)

2019年度

『保育と子ども家庭福祉 学ぶ・わかる・みえるシリーズ』櫻井奈津子編(みらい)

2020年度～

科目概要

児童福祉法とそれに関連する施策が体系化されていると言われているなかで、子ども虐待や貧困、非行などの問題を中心に、子どもとその家庭を取り巻く状況は深刻さの度合いを増し、それに伴って子ども家庭福祉制度のさらなる整備と、それに関わるべき専門職種の役割がきわめて重要なものとなっている。

この科目は、子どもにとって何よりも大切な環境である家庭の現状を踏まえて、子どもとそれを取り巻く家庭に対する福祉的な支援策がどのように制度化されているか、そして今後さらにどのように整備されるべきかを学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子ども家庭福祉とは何か、子ども家庭福祉の目的を理解する。
2. 子どもと家庭を取り巻く問題について具体的事例を通して学ぶ。
3. 子ども家庭福祉の理念を踏まえ、子どもの権利について理解する。
4. 子ども家庭福祉制度の発展過程について理解する。
5. 子ども家庭福祉施策の現状を学び、その課題について考察する。
6. 受講生が子ども家庭福祉に関わる支援策や法制度を自らの頭で考察し、説明することができる。
7. 受講生が学んだ知識を踏まえ、子ども家庭福祉に立ち向かう意欲と実践的姿勢を持てるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 子どもと家庭を取り巻く問題
2. 子ども家庭福祉の理念と子どもの権利
3. 子ども家庭福祉制度の発展過程
4. 子ども家庭福祉の法体系と実施機関
5. 社会的養護の問題(子ども虐待、貧困、非行)
6. 障害のある子どもの福祉
7. ひとり親家庭への福祉
8. 子ども家庭福祉の専門職種と関係機関との連携

参考文献

杉山春『ルポ虐待—大阪二児置き去り死事件』ちくま新書 2013年

保育学校現場での虐待対応研究会編著『保育者・教師に役立つ子ども虐待対応実践ガイド』東洋館出版社 2013年

評価基準

■レポート評価

課題について、どれだけ自分自身の課題として捉え、問題意識をもって論述しているかどうかをもとに評価します。

■科目終了試験評価

出題の主旨を理解し、基本的な知識として、身に付いたものになっているかどうかをもとに評価します。

使用テキスト

配本年度

『保育内容 健康 [新版]』民秋言・穂丸武臣編著(北大路書房)

2020 年度

『幼児と健康 日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識』小野 次朗・榊原 洋一 編著

(ジアース教育新社) 2021 年度～

科目概要

子どもが日常の生活や遊びの中で、身体的健康や精神的健康を高められるようにするために、子どもの健康に関わる基礎知識を学ぶ。乳幼児期から児童期にかけて、子どもの身体面・精神面の成長・発達の基礎から基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達、感染症等の疾患等、多角的に学ぶことで援助や対応を適切に実践するための必要な知識を習得する。

学びを深めるために、スクーリングの予習・復習を含め3時間程度おこなうことが望ましい。

学習上の目標

■科目の到達目標

- ・健康の定義と子どもの健康の意義を説明することができるようになる。
- ・子どもの身体的健康、精神的健康を理解するために、生理・運動・精神機能の知識を整理し、子どもの成長発達について説明できるようになる。
- ・子どもの健康について多角的な側面による基礎知識の習得から、子どもの健康課題を領域「健康」のねらいや内容に関連づけて考察し理解を深め、実践に繋げることができるようになる。

■科目の学習要点事項

子どもの健康を身体面、精神面、運動面とともに、取り巻く人的・物的環境など多角的に各章の項目を関連づけて学びを進めましょう。参考文献や自分自身の体験を含む事例、新聞記事などの関連資料も合わせて学習を進めていくことが深めることにも繋がります。

参考文献

厚生労働省「保育所保育指針(平成29年告示)」

文部科学省「幼稚園教育要領(平成29年告示)」

内閣府 厚生労働省 文部科学省「認定こども園教育保育要領(平成29年告示)」

川邊貴子・柴崎正行・杉原隆編著「保育内容 健康」2016 ミネルヴァ書房

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を的確に理解しているか
2. 論理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点に基づいて論述され、総合的にまとめられた内容から評価する。

使用テキスト

配本年度

『相談援助演習』福祉臨床シリーズ編集委員会編(弘文堂)

2014 年度～2016 年度

『相談援助演習〔第 2 版〕—ソーシャルワーク演習』秋山博介・谷川和昭・柳澤考主編(弘文堂)

2017 年度～2018 年度

『相談援助演習〔第 3 版〕—ソーシャルワーク演習』秋山博介・谷川和昭・柳澤考主編(弘文堂)

2019 年度～

科目概要

ソーシャルワークは、日本では「社会福祉援助技術」や「相談援助」と訳されてきた。

この科目では、ソーシャルワークの意義や方法について、保育との関連もふまえながら学ぶ。ソーシャルワークの体系を概説しながら、保育所における相談援助の方法について、事例研究を通して学ぶ。

とくに予習は必要ないが、興味をもったこと、分からないことなどについては、テキストだけでなく、参考文献や社会福祉の用語事典を図書館で調べたり、インターネットで検索したりするなど、積極的に「調べ学習」をされることを期待したい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 相談援助の概念や意義について理解する
2. 相談援助の基本的なスキルを身につける
3. 保育士にとっての相談援助の意義について理解する

■ 科目の学習要点事項

1. 社会福祉、保育にとってのソーシャルワーク意義
2. ソーシャルワークの体系—ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク・社会福祉関連技術
3. ケアマネジメントのプロセス
4. ソーシャルワークにおけるコミュニケーション
5. 面接技法
6. 事例検討:ロールプレイ
7. ソーシャルワークの価値と倫理

参考文献

山下英三郎(2006)『相談援助 子どもたちとの関わりを中心に』学苑社

須藤八千代(2004)『ソーシャルワークの作業場 寿という街』誠信書房

金子恵美(2018)『虐待・貧困と援助希求 -支援を求めない子どもと家庭にどうアプローチするか』『こころの科学』第202号

評価基準

■ レポート評価

1. レポート課題が求めている要点をしっかりと把握し、記述されているか。
2. テキストに書かれているキーワード・コンセプトが十分に記述されているか。
3. 独自性のある意見が、自分自身の言葉で述べられているか。

『相談援助演習』福祉臨床シリーズ編集委員会編(弘文堂)

2014年度～

科目概要

ソーシャルワークは、日本では「社会福祉援助技術」や「相談援助」と訳されてきた。

この科目では、ソーシャルワークの意義や方法について、保育との関連もふまえながら学ぶ。ソーシャルワークの体系を概説しながら、保育所における相談援助の方法について、事例研究を通して学ぶ。

とくに予習は必要ないが、興味をもったこと、分からないことなどについては、テキストだけでなく、参考文献や社会福祉の用語事典を図書館で調べたり、インターネットで検索したりするなど、積極的に「調べ学習」をされることを期待したい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 相談援助の概念や意義について理解する
2. 相談援助の基本的なスキルを身につける
3. 保育士にとっての相談援助の意義について理解する

■ 科目の学習要点事項

1. 社会福祉、保育にとってのソーシャルワーク意義
2. ソーシャルワークの体系—ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク・社会福祉関連技術
3. ケアマネジメントのプロセス
4. ソーシャルワークにおけるコミュニケーション
5. 面接技法
6. 事例検討:ロールプレイ
7. ソーシャルワークの価値と倫理

参考文献

福祉臨床シリーズ編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅰ(社会福祉士シリーズ7)』

福祉臨床シリーズ編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ(社会福祉士シリーズ8)』

山下英三郎(2006)『相談援助 子どもたちとの関わりを中心に』学苑社

須藤八千代(2004)『ソーシャルワークの作業場 寿という街』誠信書房

評価基準

■ レポート評価

1. レポート課題が求めている要点をしっかりと把握し、記述されているか。
2. テキストに書かれているキーワード・コンセプトが十分に記述されているか。
3. 独自性のある意見が、自分自身の言葉で述べられているか。

『社会的養護 I 』相澤仁・林浩康編集(中央法規)

2020 年度～

科目概要

子どもへの社会的な援助が必要となる社会構造と個別のニーズを理解する。また、養護の基本理念や展開・現状、児童福祉施設の特長や援助の実態等を社会的養護に携わる様々な機関の現状にふれながら学習し、社会的養護における保育士の役割について検討する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

児童福祉、児童養護における理論と実際を理解する。児童福祉施設や児童を支える各関係機関で働く保育士等の役割について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会的養護とは(総論)
2. 社会的養護についての歴史・国内外の現状
3. 社会的養護の体系と現状
-社会的養護における施設の役割と児童相談所等地域の役割
4. 社会的養護(家庭的養護)の体系と現状
5. 社会的養護を担う職員の倫理
6. 社会養護の中で暮らす子どもの権利
7. 社会的養護体系の今後の課題

参考文献

『子ども 100 年のエポック-「児童の世紀」から「子どもの権利条約」まで』本田和子(フレーベル館)

『新しい家族社会学(四訂)』森岡清美・望月崇(培風館)

評価基準

■ レポート評価

課題の内容に基づいて、論理的・説得的な記述ができているか、独自性のある意見が述べられているか。

■ 科目終了試験評価

テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、社会的養護を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。

『社会的養護 I 』相澤仁・林浩康編集(中央法規)

2020 年度～

科目概要

子どもへの社会的な援助が必要となる社会構造と個別のニーズを理解する。また、養護の基本理念や展開・現状、児童福祉施設の特長や援助の実態等を社会的養護に携わる様々な機関の現状にふれながら学習し、社会的養護における保育士の役割について検討する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

児童福祉、児童養護における理論と実際を理解する。児童福祉施設や児童を支える各関係機関で働く保育士等の役割について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会的養護とは(総論)
2. 社会的養護についての歴史・国内外の現状
3. 社会的養護の体系と現状
-社会的養護における施設の役割と児童相談所等地域の役割
4. 社会的養護(家庭的養護)の体系と現状
5. 社会的養護を担う職員の倫理
6. 社会養護の中で暮らす子どもの権利
7. 社会的養護体系の今後の課題

参考文献

『子ども 100 年のエポック-「児童の世紀」から「子どもの権利条約」まで』本田和子(フレーベル館)

『新しい家族社会学(四訂)』森岡清美・望月崇(培風館)

評価基準

■ レポート評価

課題の内容に基づいて、論理的・説得的な記述ができているか、独自性のある意見が述べられているか。

■ 科目終了試験評価

テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、社会的養護を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『社会的養護』小池由佳・山縣文治(ミネルヴァ書房)

2011年度～2012年度

『新・保育士養成講座 第5巻 社会的養護』新・保育士養成講座編纂委員会(全国社会福祉協議会)

2013年度～

科目概要

子どもへの社会的な援助が必要となる社会構造と個別のニーズを理解する。また、養護の基本理念や展開・現状、児童福祉施設の特長や援助の実態等社会的養護にかかわる様々な機関の現状に触れながら学習し、社会的養護における保育士の役割について検討する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

児童福祉、児童養護における理論と実際を理解する。児童福祉施設や児童を支える各関係機関で働く保育士の役割について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会的養護とは(総論)
2. 社会的養護についての歴史・国内外の現状
3. 社会的養護の体系と現状
 - 社会的養護における施設の役割と児童相談所等地域の役割
4. 社会的養護(家庭的養護)の体系と現状
5. 社会的養護を担う職員の倫理
6. 社会養護の中で暮らす子どもの権利
7. 社会的養護体系の今後の課題

参考文献

『子ども 100年のエポック-「児童の世紀」から「子どもの権利条約」まで』本田和子(フレーベル館)

『新しい家族社会学(四訂)』森岡清美・望月崇(培風館)

評価基準

■ レポート評価

課題の内容に基づいて、論理的・説得的な記述ができているか、独自性のある意見が述べられているか。

■ 科目終了試験評価

テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、社会的養護を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『改訂新版 現代保育学入門』諏訪きぬ編著(フレーベル館)

2014年度～2020年度

『第2版 教職入門 専門性の探究・実践力の練成』青木秀雄 他(明星大学出版部) 2021年度～

科目概要

保育者とは何かについて全般的に理解する。具体的には、保育者養成の歴史と現状、保育者の職務と専門性などについての概論のほか、実際に保育者になるにあたって必要な子どもや保育に対する見方、考え方などについても学習する。さらに、保育者としての悩みや成長、これからの保育者のあり方について考察する。近年、保育者には、単なる子どもの養育だけでなく、保護者に対する保育に関する指導や、地域への子育て支援など、多くの役割が期待されている。どのような専門性が必要なのかを総合的に考えていきたい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

児童福祉施設や教育・保育施設などで働く保育者の職務や専門性などについて学び、「保育者」について全般的に理解する。

■ 科目の学習要点事項

保育学や教職入門との関連性が強い科目であるので、関連のテキストを使用しつつ、幅広く保育のあり方とそれを担う保育者のあり方について学習する。

参考文献

- ① 『安心感と憧れが育つ ひと・もの・こと』齋藤政子著(明星大学出版部)
- ② 最新 保育所保育指針
- ③ 最新 幼稚園教育要領
- ④ 『保育者の現在』垣内国光・東社協保育士会編著(ミネルヴァ書房)
- ⑤ 『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著(ゆみる出版)

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用しながら、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。

■ 科目終了試験評価

出題範囲はテキスト全体に及ぶため、全体をよく読んでおくこと。特に、保育者の資質と専門性、職務内容については、理解を深めておくこと。基本的に押さえておきたい事項について明記されており、しかもそれについて理由が自分の言葉で推測して説明されていること。

使用テキスト

配本年度

『保育思想を学ぼうー今、子どもの幸せのためにー ルソー、ペスタロッチー、オーエン、フレーベルたちの跡を継いで〜』 岡本富郎(萌文書林) 2015年度～

科目概要

西洋近代の幼児教育思想の歴史を時代背景と併せて学ぶ。その際に、幼児教育思想家の生涯を通して学ぶ。取り上げる人はルソー、ペスタロッチー、オーエン、フレーベルである。彼らの幼児教育思想として、子どもの幸せ、育つということ、子どもと自然、子どものいのちと死、等を学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの幸せとは何かを知る。
2. 子どもが育つとはどういうことかを知る。
3. 幼児教育思想家の生きた時代背景と生涯の概略を知る。
4. 子どもにとって自然とは何かを知る。
5. 子どもといのち、死に関して知る。

■ 科目の学習要点事項

1. 子どもの幸せとは何であるか。
2. 子どもが育つとはどういうことか。
3. ルソー、ペスタロッチー、オーエン、フレーベルが生きた時代背景について。
4. 子どもにとって自然とは何か。
5. 子どもといのち、死との関係について。

参考文献

『新版 新保育原理』岡本富郎他著(萌文書林)

テキストで紹介された幼児教育思想家の文献

『幼児教育の歴史』ラスク著 田口仁久訳(学芸図書)

評価基準

■ レポート評価

1. テキストを正確に読んでいるか。
2. 内容がテーマに沿って書かれているか。
3. 理解していることが分かりやすく伝わってくるか。
4. 単なる引用ではいけない。

■ 科目終了試験評価

1. 出題問題に沿って内容が書かれているか。
2. 内容が正確に理解されているか。
3. 出題のポイントがすべて書かれているか。

科目概要

人は生物学的な基盤の上に、社会文化的環境との相互作用を行いながら、生涯にわたって自己を変容させ発達し続ける。そのしくみを理解するための基本的な諸理論を学ぶ。特に、著しい変化を遂げる乳幼児期から学童期を中心として、基本的な発達のプロセスを理解する。子どもを教え育てる教師・保育者として、発達の視点から人間の行動と心を理解するために必要な基礎知識を習得する。

その他必要である、または期待される主体的学びの概要としては、現代の子どもの育ちや、子どもをめぐる現代的な様々の問題や事象に対して、積極的に関心を持ち、知識を得て思考することである。

予習・復習に必要な時間はそれぞれ1時間30分である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 発達の概念の基礎をに関する知識を得る。
2. 生涯にわたる発達段階をエリクソンとピアジェの理論を通して理解する。
3. 乳児期・幼児期・学童期の発達の特徴を認知・社会性・自我の発達の側面から理解する。
4. 環境(教育)は発達にどのように関わるかに関して理論的知識に基づいて思考することができる。
5. 現代の社会事情のなかでの子どもの育ちに関して積極的に関心を向ける態度を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 遺伝と環境・新生児の未熟さと有能さ・臨界期概念と人の発達の可塑性・発達を支える社会文化的環境とは何か・生態学的環境システム
2. エリクソンの心理社会的発達段階論・発達段階とは何か
3. ピアジェの発生的認識論
4. 乳児期の発達:運動発達の道筋・認知の特徴・人との関わりとコミュニケーションの発達・情緒の発達・愛着形成
5. 幼児前期の発達:認知の特徴・ことばの発達・対人関係の広がり・遊びの発達・自立性の獲得・自己意識の発達
6. 幼児期後期:認知の特徴・集団のなかの発達・自己理解と他者理解
7. 学童期:認知の特徴・思考と言語・友人と学級集団・自己形成と社会化
8. 発達と教育:最近接領域の考え方・文化と集団の影響

参考文献

- ①『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子,山口 智子,林 創,中間 玲子編著(有斐閣、2014)
- ②『現代心理学入門2 発達心理学』無藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦 著(岩波書店、1995)
- ③『よくわかる発達心理学』無藤隆, 岡本 祐子,大坪 治彦,編著(ミネルヴァ書房、2009)
- ④『子どもとことば』岡本夏木 著(岩波書店、1982)
- ⑤『まなざしの誕生—赤ちゃん学革命』下條伸輔 著(新曜社、2006)

評価基準

■レポート評価

*レポート記述に関して次の観点から評価する。

1. テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
2. 課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。

*以下のようなレポートは再提出となる。

1. 規程の分量が守られていない。
2. ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
3. 他の受講生のレポートと同じかほとんど類似しているもの。
4. 誤字・脱字等が著しく多いもの、あるいは日本語の文章として逸脱しているもの。

■科目終了試験評価

*試験に関しては次の観点から評価する。

1. テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
2. 問題内容に的確に沿った解答であるか。
3. 誤字・脱字等がなく、読みやすい字で書かれ、日本語の文章として適切であるか。

使用テキスト

配本年度

- 『新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会)
2013年度～2016年度
- 『改訂2版 新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』
新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2017年度～2018年度
- 『改訂3版 新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』
新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2019年度
- 『保育士養成講座⑦ 子どもの健康と安全』
新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2020年度～

科目概要

わが国の社会は少子高齢化が進み、子どもを取り巻く環境も著しく変化している。子どもが心身共に健全に発育するためには、小児保健の歴史的変遷を学び、子どもを取り巻く社会環境の問題点を明らかにすることが重要である。また、子ども一人一人が健康に成長し順調な発達を遂げるために必要な保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育および生理的・運動的・精神的機能の発達について学習する必要がある。さらに、集団における保育活動において、子どもの健康を保持・増進するために必要な子どもの保健の基礎的知識を習得する。

注)子どもの保健(演習)のスクーリングを受講する際、「子どもの保健 1」の全単位数のレポートを受講前までに提出することが望ましい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 小児保健の意義を理解し、子どもの健康を阻害する社会的環境について考える。
2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの各期の発育、発達に応じた健康増進の意義を理解し、保育活動における健康増進の方法について考える。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 小児保健の意義と目的
 - (1)子どもの特徴と保健活動の意義と目的
 - (2)健康の概念と健康指標
 - (3)子どもの健康と社会環境
2. 子どもの発育・発達と保健
 - (1)生命の成り立ちと発育・発達
 - (2)身体発育と保健
 - (3)生理機能の発達と保健
 - (4)運動機能の発達と保健
 - (5)精神機能(情緒、言語、社会性等)の発達と保健
3. 子どもの保健と生活環境
 - (1)子どもの健康増進と保育環境

(2)子どもの健康と保育活動

4. 子どもの心の健康と保育

(1)乳児期における生活習慣の発達と母子相互作用

(2)幼児期の精神保健

(3)子どもの心の健康と課題(発達障害、心身症、精神障害等)

参考文献

- ①「新基本保育シリーズⅡ 子どもの保健」松田博雄,金森三枝編著(中央法規出版)2019
- ②「子どもの保健と支援」平山宗宏編著(日本小児医事出版社)2017
- ③「子どもの保健第7版」巷野悟郎編著(診断と治療社)2018
- ④「母子保健の主なる統計」平成31年度刊行,(母子保健事業団)
- ⑤「子どもの保健」中根淳子/佐藤 直子編著(ななみ書房)2019

評価基準

■レポート評価

1. テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
 2. レポート課題に求められているポイントを把握して、要点が適切に述べられているか。
 3. 自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
 4. 自分の考えと引用文献の内容と混同することなく表現されているか。
- * 以下のようなレポートは再提出となる
1. 1単位につき、1500字未満のレポート
 2. ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート
 3. 他の受講生のレポートと類似しているレポート。

■科目終了試験評価

- * 試験に関しては次の観点から評価する。
1. 問題文の意図を理解し、要点が適切に論述されているか。
 2. 用語の使い方が適切か。

使用テキスト

配本年度

『新 保育士養成講座第7巻子どもの保健 改訂3版』

新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2019年度

『保育士養成講座⑦ 子どもの健康と安全』

新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2020年度～

科目概要

本科目は、子どもの心身の健康増進を図るために必要な子どもの保健の基礎的知識を習得することを目的とする。子ども一人一人が健康で順調な発達を遂げるためには、保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育および生理的機能の発達について学習する必要がある。また、子どもの健康状態を適切に把握するために必要な知識および観察方法を学び、異常の早期発見に役立てる。さらに、小児期に起こり易い疾病とその予防策及び適切な対応について学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1.子どもの保健の意義を理解し、子どもの健康を阻害する社会的環境について考える。
- 2.子どもの心身の健康増進を図るために必要な保健活動を理解する。
- 3.子どもの身体発育や生理機能の発達と保健について理解する。
- 4.子どもの健康状態の把握方法と判断基準について理解する。
- 5.子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。

■ 科目の学習要点事項

- 1.子どもの保健の意義と目的
 - (1) 子どもの保健活動の意義と目的
 - (2) 健康の概念と健康指標
 - (3) 子どもの健康と社会環境
 - (4) 地域における保健活動と児童虐待防止
- 2.子どもの身体発育と生理機能の発達
 - (1) 生命の成り立ちと発育・発達
 - (2) 身体発育と保健
 - (3) 生理機能の発達と保健
- 3.子どもの健康状態の把握
 - (1) 健康状態の観察方法
 - (2) 体調不良等の早期発見
 - (3) 発育・発達の把握と健康診断
- 4.子どもの疾病の予防及び適切な対応
 - (1) 子どもによく見られる症状とその原因、対処方法、主な疾患
 - (2) 子どもによく見られる疾患
 - (3) 子どもの疾病の予防と適切な対応

参考文献

- ①「新基本保育シリーズⅡ 子どもの保健」松田博雄,金森三枝編著(中央法規出版)2019
- ②「子どもの保健と支援」平山宗宏編著(日本小児医事出版社)2017
- ③「子どもの保健第7版」巷野悟郎編著(診断と治療社)2018
- ④「子どもの保健実習―すこやかな育ちをサポートするために」兼松百合子他編著(同文書院)2016
- ⑤「子どもの保健」中根淳子/佐藤 直子編著(ななみ書房)2019

評価基準

■レポート評価

- 1.テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
- 2.レポート課題に求められているポイントを把握して、要点が適切に述べられているか。
- 3.自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
- 4.自分の考えと引用文献の内容と混同することなく表現されているか。

* 以下のようなレポートは再提出となる

- 1.1 課題につき、1500字未満のレポート
- 2.ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート
- 3.他の受講生のレポートと類似しているレポート

■科目終了試験評価

- 1.問題文の意図を理解し、要点が適切に論述されているか。
- 2.用語の使い方が適切か。

『保育士養成講座第5巻小児保健』改訂・保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2011年度～

科目概要

わが国の社会は少子高齢化が進み、子どもを取り巻く環境も著しく変化している。子どもが心身共に健全に発育するためには、小児保健の歴史的変遷を学び、子どもを取り巻く社会環境の問題点を明らかにすることが重要である。また、子ども一人一人が健康に成長し順調な発達を遂げるために必要な保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育および生理的・運動的・精神的機能の発達について学習する必要がある。さらに、集団における保育活動において、子どもの健康を保持・増進するために必要な子どもの保健の基礎的知識を習得する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 小児保健の意義を理解し、子どもの健康を阻害する社会的環境について考える。
2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの各期の発育、発達に応じた健康増進の意義を理解し、保育活動における健康増進の方法について考える。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 小児保健の意義と目的
 - (1) 子どもの特徴と保健活動の意義と目的
 - (2) 健康の概念と健康指標
 - (3) 子どもの健康と社会環境
2. 子どもの発育・発達と保健
 - (1) 胎生期から出生までの身体発育と発達
 - (2) 各期の身体発育と保健
 - (3) 生理機能の発達と保健
 - (4) 運動機能の発達と保健
 - (5) 精神機能(情緒、言語、社会性等)の発達と保健
3. 食の役割と保健
4. 子どもの生活環境と健康増進
 - (1) 子どもの健康増進の意義
 - (2) 保育活動と健康づくり
5. 子どもの心の健康と保育
 - (1) 発達と母子相互作用
 - (2) 発達課題と養育問題

参考文献

- ① 新保育ライブラリ 小児保健(新版)』高野陽・加藤則子・加藤忠明編著(北大路書房)2011
- ② 図表で学ぶ小児保健』加藤忠明・岩田力編著(建帛社)2011
- ③ 子どもの保健 第2版』巷野悟郎編著(診断と治療社)2013
- ④ 子どもの保健と支援』平山宗宏編著(日本小児医事出版社)2014
- ⑤ 母子保健の主なる統計』平成 26 年度刊行(母子保健事業団)
- ⑥ 『母子保健情報 54 号 特集・子どもの心』日本子ども家庭総合研究会編(恩賜財団母子愛育会)

評価基準

■レポート評価

1. テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
 2. レポート課題に求められているポイントを把握して、要点が適切に述べられているか。
 3. 自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
 4. 自分の考えと引用文献の内容と混同することなく表現されているか。
- * 以下のようなレポートは再提出となる
- 1.1単位につき、1500 字以下のレポート
 - 2.ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート
 - 3.他の受講生のレポートと類似しているレポート。

■科目終了試験評価

- * 試験に関しては次の観点から評価する。
1. 問題文の意図を理解し、要点が適切に論述されているか。
 2. 用語の使い方が適切か。

使用テキスト

配本年度

- 『新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会)
2013年度～2016年度
- 『改訂2版 新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』
新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2017年度～2018年度
- 『改訂3版 新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』
新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2019年度
- 『保育士養成講座⑦ 子どもの健康と安全』
新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2020年度～

科目概要

子どもの保健2では、子どもの保健1で学んだ知識を基礎に子どもの心身の健康について学習する。小児期に起こりやすい疾病とその予防策、遭遇しやすい事故と安全管理の基礎的知識を習得する。また、保育所における保健活動の計画および評価について学習する。更に、地域と家庭との密接な関係を促し、社会的な視点で育児支援を考えていけるよう、母子保健行政の歴史や保健サービスについて学び、母子保健活動及び子育て支援の今後の展望について考える。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1.子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
- 2.小児期に起こりやすい事故の種類を整理し、事故防止の必要性和安全対策について理解する。
- 3.保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
- 4.子どもの健康に関する保健計画の作成手順および評価方法について理解する。
- 5.児童福祉施設における保健対策について知り、母子保健対策と保育の連携について考える。

■ 科目の学習要点事項

- 1.子どもの疾病と保育
 - (1) 子どもの健康評価
 - (2) 子どもに日常みられる症状
 - (3) 子どもの主な疾病の特徴
 - (4) 子どもの疾病の予防と適切な対応
 - (5) 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
- 2.感染症と予防と対応
 - (1) 感染症の種類と特徴
 - (2) 感染症の予防
 - (3) 対策
 - (4) 予防接種
- 3.保育環境整備と衛生・安全管理
 - (1) 保育環境整備と保健

- (2) 保育現場における衛生管理
 - (3) 保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
 - (4) 職員間の連携
- 4.子どもに発生しやすい事故と健康安全管理
 - (1) 子どもの事故の特徴
 - (2) 安全管理
 - (3) 応急処置と救急処置
 - 5.保育所における保健計画の作成と活用
 - (1) 保健計画の作成手順
 - (2) 保健計画の活用および評価
 - 6.母子保健対策と保育
 - (1) 関連法規
 - (2) 母子保健サービスの実際
 - (3) 家庭・専門機関・地域との連携

参考文献

- ①「新基本保育シリーズⅡ 子どもの保健」松田博雄,金森三枝編著(中央法規)2019
- ②「子どもの保健と支援」平山宗宏編著(日本小児医事出版社)2017
- ③「子どもの保健」中根淳子,佐藤 直子編著(ななみ書房)2019
- ④「テキスト 子どもの病気」早川浩,小林昭夫監修(日本小児医事出版社)2012
- ⑤「保育士による安全保育」田中哲郎編著(日本小児医事出版社)2016

評価基準

■レポート評価

- 1.テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
- 2.レポート課題に求められているポイントを把握して、要点が適切に述べられているか。
- 3.自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
- 4.自分の考えと引用文献の内容と混同することなく表現されているか。

※以下のようなレポートは再提出となる

- 1.1 課題につき、1500字未満のレポート。
- 2.ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート
- 3.他の受講生のレポートと類似しているレポート

■科目終了試験評価

- 1.問題文の意図を理解し、要点が論述されているか。
- 2.用語の使い方が適切か。

『改訂4版保育士養成講座第5巻小児保健』保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会 2010) 2011年度～

科目概要

小児保健2(講義)では、子どもの保健1で学んだ知識を基礎に子どもの心身の健康について学習する。小児期に起こり易い疾病とその予防策、遭遇しやすい事故と安全管理の基礎的知識を習得する。また、地域と家庭との密接な関係を促し、社会的な視点で育児支援を考えていけるよう、母子保健行政の歴史や保健サービスについて学び、母子保健活動及び子育て支援の今後の展望について考える。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1.子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
- 2.小児期に起こり易い事故の種類を整理し、事故防止の必要性和安全対策について理解する。
- 3.保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
- 4.児童福祉施設における保健対策について知り、母子保健対策と保育の連携について考える。

■ 科目の学習要点事項

- 1.子どもの疾病と保育
 - (1)子どもの健康評価
 - (2)子どもに日常みられる症状
 - (3)子どもの主な疾病の特徴
 - (4)子どもの疾病の予防と適切な対応
 - (5)慢性疾患をもつ子どもへの対応
- 2.感染症と予防接種
- 3.心に問題をもつ子どもの保健と保育
 - (1)発達障害
 - (2)習慣性習癖
 - (3)心身症
 - (4)児童虐待
- 4.子どもに発生しやすい事故と安全対策
 - (1)事故の種類
 - (2)事故防止対策
 - (3)子どもに多い傷害と応急処置
- 5.児童福祉施設における保健対策
 - (1)保育環境整備と保健
 - (2)保育現場における衛生管理
 - (3)保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
 - (4)職員間の連携
- 6.母子保健対策と保育

- (1)関連法規
- (2) 母子保健サービスの実際
- (3)家庭・専門機関・地域との連携

参考文献

- 『小児保健 保育に活かす病気と発達の理解』神原洋一編著(建帛社、2009)
- 『新保育ライブラリ 小児保健』高野陽・加藤則子・加藤忠明編著(北大路書房、2011)
- 『図表で学ぶ小児保健』加藤忠明・岩田力編著(建帛社、2010)
- 『テキスト 子どもの病気』早川浩・小林昭夫監修(日本小児医事出版社、2012)
- 『子どもの保健実習 すこやかな育ちをサポートするために』兼松百合子他編著(同文書院、2013)
- 『保育園における事故防止と安全管理』田中哲郎編著(日本小児医事出版社、2011)
- 『保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健 I・II』小國美也子編著(日本小児医事出版社、2016)

評価基準

■レポート評価

- 1.テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
- 2.レポート課題に求められているポイントを把握して、要点が適切に述べられているか。
- 3.自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
- 4.自分の考えと引用文献の内容と混同することなく表現されているか。

* 以下のようなレポートは再提出となる

- 1.1 課題につき、1500字以下のレポート。
- 2.ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート。
- 3.他の受講生のレポートと類似しているレポート。

■科目終了試験評価

- 1.問題文の意図を理解し、要点が論述されているか。
- 2.用語の使い方が適切か。

使用テキスト

配本年度

『新訂 小児保健実習』 兼松百合子,荒木暁子,羽室俊子編著(同文書院)	~2012 年度
『子どもの保健実習-すこやかな育ちをサポートするために-』 兼松百合子,荒木暁子,羽室俊子編著(同文書院)	2013 年度~2016 年度
『子どもの保健・実習-すこやかな育ちをサポートするために- (第2版)』 兼松百合子,荒木暁子,羽室俊子編著(同文書院)	2017 年度~2020 年度
『子どもの保健・実習-すこやかな育ちをサポートするために- (第3版)』 兼松百合子,荒木暁子,羽室俊子編著(同文書院)	2021 年度~

科目概要

本学は「子どもの保健1」で学んだ知識を基礎に、演習を通して乳幼児の保育に必要な知識、技術、態度を習得することを目標とする。保育と保健、看護の連携について知り、乳幼児の健康観察の方法、成長・発達の測定法と評価、生理機能の観察と測定方法、養護技術、病気や事故に対する予防と対処方法の実際を学ぶ。更に、乳幼児が不測の事態に陥ったときに敏速に判断し、適切な救急処置が行えるよう基本原則と技術を習得する。また、子どもの健康を増進し、心身の発達を促す保健活動や適切な保育環境について学ぶ。

注)この教科のスクーリングを受講する際は、「子どもの保健1」の全単位数のレポートを受講前までに提出することが望ましい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの健康観察の項目を挙げ、発育・発達の評価基準を理解する。
2. 子どもの健康を保持・増進し、安全な生活を保障するために必要な養護技術の原理、原則を学び、演習を通して適切な技術を習得する。
3. 健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境について考える。
4. 子どもの疾病とその予防および適切な対応について理解する。
5. 事故や災害に遭遇した場合に、慌てず応急処置、救急処置ができるよう、シミュレーションしながら演習する。
6. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 子どもの成長・発達の評価
 - (1)健康観察と評価
 - (2)身体発育の評価法と生理機能の観察と測定法
 - (3)精神機能, 運動機能の発達の評価法
2. 子どもの生活習慣と心身の健康
 - (1)日常生活の養護
 - (2)子どもの健康増進と保育環境
3. 発達援助と保健活動
4. 子どもの病気予防と対応
 - (1)一般的な症状に対する看護

- (2)病気の予防と対処
 - (3)感染症の予防と対策
 - (4)特別な配慮を必要とする子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー疾患、発達障害など)
- 5.事故防止と応急処置
- 6.集団保育における健康管理,健康教育
- 1)保健計画の作成、評価
 - 2)健康教育の実際

参考文献

- ① 『子どもの健康と安全』中根淳子,佐藤 直子編著(ななみ書房)2019
- ② 『子どもの保健Ⅱ 演習』第6版 白野幸子(医歯薬出版株式会社)2017
- ③ 『子どもの保健演習』改訂第2版 大西文子編著(中山書店)2017
- ④ 『子どもの保健演習ノート』榊原洋一編著(診断と治療社)2016
- ⑤ 『保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～』小國美也子編著(日本小児医事出版社)2018

評価基準

■レポート評価

- 1. テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
 - 2. レポート課題に求められているポイントを把握して、要点が適切に述べられているか。
 - 3. 自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
 - 4. 自分の考えと引用文献の内容と混同することなく表現されているか。
- * 以下のようなレポートは再提出となる
- 1.1単位につき、1500字未満のレポート
 - 2.ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート
 - 3.他の受講生のレポートと類似しているレポート。

使用テキスト

配本年度

『子どもの保健・実習-すこやかな育ちをサポートするために-(第2版)』

兼松百合子,荒木暁子,羽室俊子編著(同文書院)

2019年度

『子どもの保健・実習-すこやかな育ちをサポートするために-(第3版)』

兼松百合子,荒木暁子,羽室俊子編著(同文書院)

2020年度～

科目概要

本教科は、「子どもの保健」で学んだ知識を基礎に、演習を通して乳幼児の保育に必要な知識、技術、態度を習得することを目的とする。保育と保健、看護の連携について知り、成長・発達の測定法と評価、生理機能の観察と測定方法、疾病や事故に対する予防と対処方法の実際を学ぶ。更に、乳幼児が不測の事態に陥ったときに敏速に判断し、適切な救急処置が行えるよう基本原則と技術を習得する。また、子どもの健康を増進し、心身の発達を促す保健活動や健康安全管理について学ぶ。

注)この教科を学習するにあたっては、「子どもの保健」の全単位数のレポートを提出していることが望ましい。

「子どもの保健」の全範囲を復習し、問題意識をもって授業に臨むこと。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの健康を保持・増進し、安全な生活を保障するために必要な技術を習得する。
2. 健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や適切な環境を考える。
3. 子どもの体調不良や傷害発生の予防および適切な対応について理解する。
4. 事故や災害に遭遇した場合に必要な応急処置、救急処置についてシミュレーションしながら演習する。
5. 感染症の予防及び発生時の対策について理解する。
6. 保育における保健的対応について理解する。
7. 子どもの健康安全管理に係る実施体制について考える。

■ 科目の学習要点事項

1.子どもの成長・発達の評価の実際

- 1)健康観察と評価
- 2)身体発育の評価法と生理機能の観察と測定法

2.保健的観点を踏まえた保育環境と援助

- 1)子どもの健康増進と保育環境
- 2)子どもの保健に係る個別的対応
- 3)集団全体の健康安全管理

3.健康安全管理の実際

- 1)衛生管理
- 2)事故防止及び安全対策
- 3)危機管理
- 4)災害時の対応

4.子どもの体調不良等に対する適切な対応

- 1)子どもによく見られる症状に対するケア
- 2)体調不良等に対する適切な対応
- 3)病気の予防と対処
- 4)傷害が発生した場合の応急処置
- 5)救急処置及び救急蘇生法

5.感染症対策

- 1)感染症の種類と特徴
- 2)集団保育における感染症の予防
- 3)感染症発生時と罹患後の対応

6.保育における保健的対応

- 1)3歳未満時への対応
- 2)個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
(慢性疾患、アレルギー疾患、障害がある場合など)

7.集団保育における健康安全管理

- 1)職員間の連携
- 2)保育における保健活動計画及び評価
- 3)健康教育の実際
- 4)母子保健・地域保健と保育

参考文献

- ① 『子どもの健康と安全』中根淳子,佐藤 直子編著(ななみ書房)2019
- ② 『子どもの保健Ⅱ 演習』第6版 白野幸子(医歯薬出版株式会社)2017
- ③ 『新 保育士養成講座第7巻子どもの健康と安全』新 保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会)2019
- ④ 『保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～』小國美也子編著(日本小児医事出版社)2018
- ⑤ 『保育士による安全保育』田中哲郎著(日本小児医事出版社)2019 「保育士による安全保育」

評価基準

■レポート評価

1. テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
2. レポート課題に求められているポイントを把握して、要点が適切に述べられているか。
3. 自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
4. 自分の考えが引用文献の内容と混同することなく表現されているか。

*以下のようなレポートは再提出となる

- 1.1 単位につき、1500字未満のレポート
2. ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート
3. 他の受講生のレポートと類似しているレポート

『新訂 小児保健実習』兼松百合子,荒木暁子,羽室俊子編著(同文書院)

2012年度～

科目概要

本学は「子どもの保健1」で学んだ知識を基礎に、演習を通して乳幼児の保育に必要な知識、技術、態度を習得することを目標とする。保育と保健、看護の連携について知り、乳幼児の健康観察の方法、成長・発達の測定法と評価、生理機能の観察と測定方法、養護技術、病気や事故に対する予防と対処方法の実際を学ぶ。更に、乳幼児が不測の事態に陥ったときに敏速に判断し、適切な救急処置が行えるよう基本原則と技術を習得する。また、子どもの健康を増進し、心身の発達を促す保健活動や適切な保育環境について学ぶ。

注)この教科は、「子どもの保健1」の全単位数のレポートを提出し、合格すれば履修可とする。(科目終了試験に合格していなくても、レポートが合格していれば履修可)

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの健康観察の項目を挙げ、発育・発達の評価基準を理解する。
2. 子どもの健康を保持・増進し、安全な生活を保障するために必要な養護技術の原理、原則を学び、演習を通して適切な技術を習得する。
3. 健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境について考える。
4. 子どもの疾病とその予防および適切な対応について理解する。
5. 事故や災害に遭遇した場合に、慌てず応急処置、救急処置ができるよう、シミュレーションしながら演習する。
6. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 子どもの成長・発達の評価
 - (1)健康観察と評価
 - (2)身体発育の評価法と生理機能の観察と測定法
 - (3)精神機能, 運動機能の発達の評価法
2. 子どもの生活習慣と心身の健康
 - (1)日常生活の養護
 - (2)子どもの健康増進と保育環境
3. 発達援助と保健活動
4. 子どもの病気の予防と対応
 - (1)一般的な症状に対する看護
 - (2)病気の予防と対処
 - (3)感染症の予防と対策
 - (4)特別な配慮を必要とする子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー疾患、発達障害など)
5. 事故防止と応急処置
6. 集団保育における健康管理, 健康教育

参考文献

- ② 『子どもの保健Ⅱ』佐藤益子編著(ななみ書房)2016
- ③ 『子どもの保健(2)』白野幸子(医歯薬出版株式会社)2011
- ④ 小児保健 保育に活かす病気と発達の理解』榊原洋一編著(建帛社) 2009
- ⑤ 『子どもの保健演習』大西文子編著(中山書店)2012

評価基準

■レポート評価

1. テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
 2. レポート課題に求められているポイントを把握して、要点が適切に述べられているか。
 3. 自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
 4. 自分の考えと引用文献の内容と混同することなく表現されているか。
- * 以下のようなレポートは再提出となる
- 1.1単位につき、1500字以下のレポート
 - 2.ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート
 - 3.他の受講生のレポートと類似しているレポート。

使用テキスト

配本年度

- 『乳児の保育新時代』乳児保育研究会(ひとなる書房) 2012年度～2016年度
 『改訂4版 資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会(ひとなる書房) 2017年度～2018年度
 『改訂5版 資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会(ひとなる書房) 2019年度～

科目概要

乳児保育1では、まず新生児期から幼児期までの乳幼児の全般的な発達過程を理解しながら、特に乳児期の発達の内容とおとなのかかわりの重要性について理解する。また、乳児保育の人的環境と物的環境のあり方や、乳児保育の方法・内容について実際に演習形式で学ぶ。予習・復習に必要な時間は15時間です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ①乳児の発達過程について、姿勢・運動、言語、社会性、粗大運動、微細運動など、多面的に理解すること
- ②0～3歳児期の主要課題は「基本的生活の確立」と「あそび」ですが、乳児保育におけるあそびのあり方をおして、人的環境、物的環境の重要性について理解すること

■ 科目の学習要点事項

新生児期から幼児期後期までの乳幼児の全般的な発達過程を理解したうえで、その中の乳児期の位置づけを考
 えること

参考文献

- ①『育ちのきほんー0歳から6歳』神田英雄(ひとなる書房)
- ②『0歳から3歳』神田英雄(保育団体連絡会)
- ③『保育のきほんーゼロ・1歳』西川由紀子他(ちいさいなかも社)

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用しながら、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。
- ・他の受講生のレポートと類似しているレポート

『改訂5版 資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会(ひとなる書房)

2019年度～

科目概要

乳児保育1では、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷、乳児保育が社会に果たすべき役割や、今後のあり方について学ぶ。また、保育所、乳児院等、多様な保育の場における乳児保育・3歳未満児保育の保育内容や運営体制について学ぶ。乳児保育における職員間の協働や、保護者・地域の専門機関との連携のあり方について学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 乳児保育の意義・目的、乳児保育が社会に果たす役割などについて理解する。
2. 乳児保育を取り巻く思想について、3歳児神話や母性神話、仲間関係に対する言説について歴史的経緯と保育の課題を理解したうえでの思考ができる。
3. エンゼルプランや子ども・子育て支援法など、制度面でどのような子育て支援対策が取られてきたのか、それらと日本の保育・子育てとの関連について理解が深まる。
4. 3歳未満児の発達と、それを踏まえたより良い保育環境のあり方について判断ができる。
5. 乳児保育における職員間の協働や、保護者・地域の専門機関との連携のあり方について理解が深まる。

■ 科目の学習要点事項

1. 乳児保育の意義・目的
2. 3歳未満児の発達と保育
3. 子どもも親も共に豊かに育つ保育
4. 日本の乳児保育の現状と課題

参考文献

- ①『保育士等キャリアアップ研修テキスト 乳児保育』秋田喜代美ほか監修 阿部和子編（中央法規）
- ②『安心感と憧れが育つ ひと・もの・こと 環境との対話から未来の希望へ』齋藤政子編著（明星大学出版部）
- ③『育ちのきほんー0歳から6歳』神田英雄（ひとなる書房）
- ④『家族援助を問い直す』金田利子・齋藤政子編著（同文書院）

評価基準

■レポート評価

- ・参考文献を使用しながら、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。
- ・引用の仕方が適切なこと

■科目終了試験評価

- ・テキストと参考文献①に書かれていることを述べること
- ・子ども子育て支援に関する法律や保育所保育指針など、必要な法令は目を通しておくこと
- ・段落にわけて論述すること
- ・乳児保育2のスクーリングでも解説するため、試験は乳児保育2のスクーリング後に受けることを推奨する。

使用テキスト

配本年度

『乳児の保育新時代』乳児保育研究会(ひとなる書房)

2014 年度～2016 年度

『改訂 4 版 資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会(ひとなる書房)

2017 年度～2018 年度

『改訂 5 版 資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会(ひとなる書房)

2019 年度～

科目概要

乳児保育2では、乳児保育の記録と計画および、乳児保育を取りまく様々な思想や制度、また、乳児保育の歴史と今後のあり方について学ぶ。少子化社会対策大綱を踏まえて、乳児保育が社会に果たすべき役割や、今後のあり方について理解する。「予習・復習に必要な時間」は15時間です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 3歳未満児保育の全体的な計画のあり方とともに、わが国の乳児保育の歴史的経緯と保育の課題を学ぶ。
2. 少子化社会対策大綱やエンゼルプラン、子ども子育て支援法など、制度面でどのような子育て支援対策が取られてきたのか、それらが保育と子育てにどのような影響を与えたのかについて学ぶ。

■ 科目の学習要点事項

1. 「乳児保育」と「三歳児神話」
2. 子どもの発達と乳児保育
3. 子どもも親も共に豊かに育つ保育
4. 乳児保育の現状と課題

参考文献

- ①『育ちのきほんー0歳から6歳』神田英雄(ひとなる書房)
- ②『家族援助を問い直す』金田利子・齋藤政子編著(同文書院)
- ③『乳児期の発達と生活・あそび』長瀬美子著(ひとなる書房)
- ④『乳児の発達と保育ー遊びと育児』園と家庭を結ぶ「げんき」編集部(エイデル研究所)
- ⑤『思いをつなぐ 保育の環境構成』宮里暁美編著(中央法規出版)

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用し的確に内容を把握した上で、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。

『社会的養護Ⅱ』相澤仁・村井美紀・大竹智編著(中央法規)

2020年度～

科目概要

保育士は、子どもの社会的養護における第一線を担う専門職である。ここでは、保育士に必要となる、社会的養護の体系に関する知識とその実際について学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

児童福祉施設における子どもや大人の生活についての理解を深めるとともに、社会的養護を支える様々な関係機関の役割とその実際を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会的養護の体系
2. 社会的養護の実際(日常生活支援)
3. 社会的養護の実際(自立支援)
4. 社会的養護(家庭的養護)の実際(日常生活・自立支援)
5. 社会的養護とソーシャルワーカーの関わり

参考文献

各種白書

『障害児者へのサポートガイド』新井英靖 2007(中央法規出版)

『明日の子供たち』有川浩 2014(幻冬舎)

『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く98の論点』福祉社会学会編 2013(中央法規出版)

『私たち抜きに私たちのことを決めないで 障害者権利条約の軌跡と本質』藤井克徳 2014(やどかり出版)

『社会福祉キーワード 補訂版』平岡公一編 2002(有斐閣)

『健康で文化的な最低限度の生活』柏木ハルコ(小学館)

『ちいさいひと 青葉児童相談書物語』來竹桃ジシ・水野光博・小宮純一(小学館)

『障害のある方への接遇マニュアル』東京都心身障害者福祉センター編集 2006 改訂版 ☆

『発達障害者支援ハンドブック 2015』東京都保健福祉局 2015 ☆

『知的障害・発達障害のある人への合理的配慮』坂爪一幸・湯汲英史 2015(かもがわ出版)

『陽のあたる家 生活保護に支えられて』さいきまこ(秋田書店)

『凍り付いた瞳』シリーズ ささやななえ(集英社)

『安心と憧れが育つ人・もの・こと』齋藤政子編著(明星大学出版部)

『産まなくても育てられます』後藤絵里(講談社)

『発達障害の子どもたち』杉山登志郎 2007(講談社)

『良い支援?』寺本晃久、岡部耕典、末永弘、岩橋誠治著 2008(生活書院)

『どんぐりの家』山本おさむ(小学館)

『児童養護施設運営指針』 ☆

『児童養護施設運営ハンドブック』 ☆

『乳児院運営指針』 ☆

『乳児院運営ハンドブック』 ☆

『母子生活支援施設運営指針』 ☆

『母子生活支援施設運営ハンドブック』 ☆

※☆印の付いているものは、ウェブページよりダウンロードが可能です。

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を適確に理解しているか
 2. 論理的・説得的な記述が行えているか
 3. 独自性のある意見が述べられているか
 4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか
- の4点にもとづいて、評価する。

『社会的養護Ⅱ』相澤仁・村井美紀・大竹智編集(中央法規)

2020年度～

科目概要

保育士は、子どもの社会的養護における第一線を担う専門職である。ここでは、保育士に必要となる、社会的養護の体系に関する知識とその実際について学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

児童福祉施設における子どもや大人の生活についての理解を深めるとともに、社会的養護を支える様々な関係機関の役割とその実際を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会的養護の体系
2. 社会的養護の実際(日常生活支援)
3. 社会的養護の実際(自立支援)
4. 社会的養護(家庭的養護)の実際(日常生活・自立支援)
5. 社会的養護とソーシャルワーカーの関わり

参考文献

各種白書

『障害児者へのサポートガイド』新井英靖 2007(中央法規出版)

『明日の子供たち』有川浩 2014(幻冬舎)

『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く98の論点』福祉社会学会編 2013(中央法規出版)

『私たち抜きに私たちのことを決めないで 障害者権利条約の軌跡と本質』藤井克徳 2014(やどかり出版)

『社会福祉キーワード 補訂版』平岡公一編 2002(有斐閣)

『健康で文化的な最低限度の生活』柏木ハルコ(小学館)

『ちいさいひと 青葉児童相談書物語』來竹桃ジシ・水野光博・小宮純一(小学館)

『障害のある方への接遇マニュアル』東京都心身障害者福祉センター編集 2006 改訂版 ☆

『発達障害者支援ハンドブック 2015』東京都保健福祉局 2015 ☆

『知的障害・発達障害のある人への合理的配慮』坂爪一幸・湯汲英史 2015(かがわ出版)

『陽のあたる家 生活保護に支えられて』さいきまこ(秋田書店)

『凍り付いた瞳』シリーズ ささやななえ(集英社)

『発達障害の子どもたち』杉山登志郎 2007(講談社)

『良い支援?』寺本晃久、岡部耕典、末永弘、岩橋誠治著 2008(生活書院)

『どんぐりの家』山本おさむ(小学館)

『児童養護施設運営指針』 ☆

『児童養護施設運営ハンドブック』 ☆

『乳児院運営指針』 ☆

『乳児院運営ハンドブック』 ☆

『母子生活支援施設運営指針』 ☆

『母子生活支援施設運営ハンドブック』 ☆

※☆印の付いているものは、ウェブページよりダウンロードが可能です。

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を適確に理解しているか
2. 論理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点にもとづいて、評価する。

『よくわかる社会的養護内容[第3版]』小木曾宏・鈴木崇之・宮本秀樹(ミネルヴァ書房) 2016年度～

科目概要

保育士は、子どもの社会的養護における第一線を担う専門職である。ここでは、保育士に必要となる、社会的養護の体系に関する知識とその実際について学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

児童福祉施設における子どもや大人の生活についての理解を深めるとともに、社会的養護を支える様々な関係機関の役割とその実際を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会的養護の体系
2. 社会的養護の実際(日常生活支援)
3. 社会的養護の実際(自立支援)
4. 社会的養護(家庭的養護)の実際(日常生活・自立支援)
5. 社会的養護とソーシャルワーカーの関わり

参考文献

各種白書

『障害児者へのサポートガイド』新井英靖 2007(中央法規出版)

『明日の子供たち』有川浩 2014(幻冬舎)

『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く98の論点』福祉社会学会編 2013(中央法規出版)

『私たち抜きに私たちのことを決めないで 障害者権利条約の軌跡と本質』藤井克徳 2014(やどかり出版)

『社会福祉キーワード 補訂版』平岡公一編 2002(有斐閣)

『健康で文化的な最低限度の生活』柏木ハルコ(小学館)

『ちいさいひと 青葉児童相談書物語』來竹桃ジシ・水野光博・小宮純一(小学館)

『障害のある方への接遇マニュアル』東京都心身障害者福祉センター編集 2006 改訂版 ☆

『発達障害者支援ハンドブック 2015』東京都保健福祉局 2015 ☆

『知的障害・発達障害のある人への合理的配慮』坂爪一幸・湯汲英史 2015(かもがわ出版)

『陽のあたる家 生活保護に支えられて』さいきまこ(秋田書店)

『凍り付いた瞳』シリーズ ささやななえ(集英社)

『発達障害の子どもたち』杉山登志郎 2007(講談社)

『良い支援?』寺本晃久、岡部耕典、末永弘、岩橋誠治著 2008(生活書院)

『どんぐりの家』山本おさむ(小学館)

『児童養護施設運営指針』 ☆

『児童養護施設運営ハンドブック』 ☆

『乳児院運営指針』 ☆

『乳児院運営ハンドブック』 ☆

『母子生活支援施設運営指針』 ☆

『母子生活支援施設運営ハンドブック』 ☆

※☆印の付いているものは、ウェブページよりダウンロードが可能です。

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を適確に理解しているか
2. 論理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点にもとづいて、評価する。

使用テキスト

配本年度

『安心感と憧れが育つ ひと・もの・こと』齋藤政子編著(明星大学出版部) 2018年度～2019年度

『ことばと表現力を育む 児童文化』川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著(萌文書林) 2020年度

『ことばと表現力を育む 児童文化(第2版)』川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著(萌文書林) 2021年度

科目概要

子どもの発達や子どもを取り巻く環境を前提として、子どもの人格形成に影響を与える児童文化及び児童文化財について理解する。そして、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された保育の内容を踏まえ、保育の中で児童文化財を活用したり展開したりする技術を習得する。

なお、授業内容を理解し自分のものとするための予習復習に要する時間は、受講生の既習事項等により異なってくるが、本科目全体に対して3時間から5時間程度を想定している。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1) 子どもの生活と遊びの中の児童文化についての理解が深まる。
- 2) 児童文化財とそれらの特徴についての知識が身に付く。
- 3) 児童文化財の保育への活用方法についての技能が身に付く。

■ 科目の学習要点事項

- 1) について: 遊びとは、子どもを取り巻く環境の変化、児童文化史。
- 2) について: 絵本・紙芝居・パネルシアターなど多様な児童文化財とそれらの特徴。
- 3) について: 児童文化財の活用方法の実際(ワーク)。

参考文献

古田足日『児童文化とは何か』(『日本児童文化史叢書7』収載)久山社、1996年。

古田足日『子どもと文化』(『日本児童文化史叢書16』収載)久山社、1997年。

加藤理、鶴野祐介、遠藤純編『叢書 児童文化の歴史Ⅲ 児童文化と子ども文化』港の人、2012年。

評価基準

■ レポート評価

- ・レポート課題の内容を理解しているか。
- ・授業内容を理解しているか。
- ・キーワードを用いているか。
- ・自分の考えを要領よくまとめ、わかりやすく(論理的に)記述できているか。

※なお、以下のようなレポートは再提出となります。

- ・ほとんどテキストの写しであるレポート。
- ・他の受講生のレポートと同じか、あるいは、ほとんど類似のレポート。

使用テキスト

配本年度

『演習 児童文化 保育内容としての実践と展開』小川清美編(萌文書林)	2019年度
『ことばと表現力を育む 児童文化』川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著(萌文書林)	2020年度
『ことばと表現力を育む 児童文化(第2版)』川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著(萌文書林)	2021年度

科目概要

子どもの発達や子どもを取り巻く環境を前提として、子どもの人格形成に影響を与える児童文化及び児童文化財について理解する。そして、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された保育の内容を踏まえ、保育の中で児童文化財を活用したり展開したりする技術を習得する。

なお、授業内容を理解し自分のものとするための予習復習に要する時間は、受講生の既習事項等により異なってくるが、本科目全体に対して3時間から5時間程度を想定している。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの生活と遊びの中の児童文化についての理解が深まる。
2. 児童文化財とそれらの特徴についての知識が身に付く。
3. 児童文化財の保育への活用方法についての技能が身に付く。

■ 科目の学習要点事項

- 1.について:遊びとは、子どもを取り巻く環境の変化、児童文化史。
- 2.について:絵本・紙芝居・パネルシアターなど多様な児童文化財とそれらの特徴。
- 3.について:児童文化財の活用方法の実際(ワーク)。

参考文献

- 古田足日『児童文化とは何か』(『日本児童文化史叢書7』収載)久山社、1996年。
 古田足日『子どもと文化』(『日本児童文化史叢書16』収載)久山社、1997年。
 加藤理、鶴野祐介、遠藤純編『叢書 児童文化の歴史Ⅲ 児童文化と子ども文化』港の人、2012年。

評価基準

■ レポート評価

- ・レポート課題の内容を理解しているか。
- ・授業内容を理解しているか。
- ・キーワードを用いているか。
- ・自分の考えを要領よくまとめ、わかりやすく(論理的に)記述できているか。

※なお、以下のようなレポートは再提出となります。

- ・ほとんどテキストの写しであるレポート。
- ・他の受講生のレポートと同じか、あるいは、ほとんど類似のレポート。

使用テキスト

配本年度

『体験する・調べる・考える 領域「環境」』田宮緑(萌文書林)

2020 年度～

科目概要

現代社会の子どもを取り巻く環境を踏まえ、「環境を通して行う保育」「領域 環境」について考える。さらに、素材や遊びを通して「体験する」「調べる」「考える」体験をし、領域「環境」のねらいや内容についての理解を深め、指導計画や環境構成案の作成について学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ・現代社会の子どもを取り巻く環境を踏まえ、領域「環境」の役割とは何かについて学ぶ。
- ・体験を通して、領域「環境」のねらいや内容について理解を深める。
- ・身近な素材を活用できる指導計画や、子どもの体験を豊かにする環境構成案の作成をする。

■ 科目の学習要点事項

- ・幼児期の教育は、その特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本としているが、ここで述べられている「環境」と領域「環境」との関連について考える。
- ・テキスト第2部にある内容を体験してからレポート課題に取り組む。

参考文献

- 保育所保育指針・幼稚園教育要領・(認定こども園教育保育要領)
- 齋藤政子「安心感と憧れが育つひと・もの・こと—環境との対話から未来の希望へ」明星大学出版部
- 高山静子「学びを支える保育環境づくり 幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成」小学館
- 高山静子「保育の専門性に基ついて 環境構成の理論と実践」エイデル研究所
- 大宮勇雄「学びの物語の保育実践」ひとなる書房

評価基準

■ レポート評価

- ・子どもを取り巻く環境の中で、どこに焦点を当てたかが明確になっていること。
- ・子どもの主体的な取り組みによって、「経験させたい内容」が経験できるような環境が考えられていること。
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること。
- ・誤字脱字がないこと。
- ・制限字数を満たしていること。

使用テキスト

配本年度

『体験する・調べる・考える 領域「環境」』田宮緑(萌文書林)

2019年度～

科目概要

現代社会の子どもを取り巻く環境を踏まえ、「環境を通して行う保育」「領域 環境」について考える。さらに、素材や遊びを通して「体験する」「調べる」「考える」体験をし、領域「環境」のねらいや内容についての理解を深め、指導計画や環境構成案の作成について学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ・現代社会の子どもを取り巻く環境を踏まえ、領域「環境」の役割とは何かについて学ぶ。
- ・体験を通して、領域「環境」のねらいや内容について理解を深める。
- ・身近な素材を活用できる指導計画や、子どもの体験を豊かにする環境構成案の作成をする。

■ 科目の学習要点事項

- ・幼児期の教育は、その特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本としているが、ここで述べられている「環境」と領域「環境」との関連について考える。
- ・テキスト第2部にある内容を体験してからレポート課題に取り組む。

参考文献

- 保育所保育指針・幼稚園教育要領・(認定こども園教育保育要領)
- 齋藤政子「安心感と憧れが育つひと・もの・こと—環境との対話から未来の希望へ」明星大学出版部
- 高山静子「学びを支える保育環境づくり 幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成」小学館
- 高山静子「保育の専門性に基ついて 環境構成の理論と実践」エイデル研究所
- 大宮勇雄「学びの物語の保育実践」ひとなる書房

評価基準

■ レポート評価

- ・子どもを取り巻く環境の中で、どこに焦点を当てたかが明確になっていること。
- ・子どもの主体的な取り組みによって、「経験させたい内容」が経験できるような環境が考えられていること。
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること。
- ・誤字脱字がないこと。
- ・制限字数を満たしていること。

使用テキスト

配本年度

『あそびのひみつ—指導と理論の新展開（新保育論）』河崎道夫著（ひとなる書房）

2012年度～2017年度

『安心感と憧れが育つひと・もの・こと』斎藤政子編著（明星大学出版部）

2018年度～

科目概要

近年の子どもの遊びを取りまく環境について学習し、子どもにとってのあそびの役割、特に人格発達におけるあそびの役割を理解する。人とかかわりを育てる遊び、物を媒介にして楽しむ遊びなど様々な遊びの種類と効用について理解する。特に、地域や家庭で伝承されなくなってきたわらべうた遊びや集団遊びなどについて学習し、遊びを通して子どもの発達を促すネットワークや保育者・教師の役割についても学ぶ。予習・復習は必要ありませんが、テキストをよく読んで理解しましょう。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 幼児から児童期の発達にあそびは不可欠であることを理解する。
2. あそびを育てる保育者・教師の役割について知る。
3. あそびをはぐくむ環境について考える。

■ 科目の学習要点事項

- ・幼児から児童期を中心としたあそびと子どもの発達についての理解
- ・実践の中であそびを豊かにする方法を考える
- ・あそびを生み出す環境について考える
- ・あそびの指導と援助の方法を知る
- ・コミュニケーションを育てるあそびを知る
- ・子どもの権利条約における「あそび」の位置づけを知る

参考文献

- ①『遊びが学びに欠かせないわけ』ピーター・グレイ（築地書館）
- ②子どもの権利条約ゼネラルコメントNo.17（子どもと文化のNPO Art.31）
- ③脳をきたえる「じゃれつき遊び」正木健雄（小学館）
- ④『遊びと人間』ロジェ カイヨワ（講談社学術文庫）

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用しながら、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。

使用テキスト

配本年度

『なぜ 世界の幼児教育・保育を学ぶのか 子どもの豊かな育ちを保障するために』

泉 千勢 編著(ミネルヴァ書房)

2018 年度～

科目概要

世界各国の保育・幼児教育改革の現状を学ぶことで、保育の最新事情を理解し、日本の保育の課題と展望を得ることを目的とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① OECD加盟国の保育・幼児教育の現状と改革のプロセスを理解する。
- ② OECDの保育に関する提言と21世紀の保育が目指す方向を理解する。
- ③ 世界の保育を学びながら、日本の保育の課題を理解する。

■ 科目の学習要点事項

- ① 世界の国々の文化的・経済的事情を踏まえたうえで、それぞれの保育の評価をすること
- ② OECDの三つの保育提言の要点を理解すること
- ③ 日本と諸外国の保育の違いを明確にすること

参考文献

- ① 『世界の幼児教育・保育改革と学力(未来への学力と日本の教育 9)』泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著、明石書店、2008年
- ② 『OECD保育白書—人生の始まりこそ力強く—乳幼児期の教育とケア(ECEC)の国際比較』OECD編著 星三和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子編訳、明石書店、2011年
- ③ 『持続可能な未来のための学習』ユネスコ著 阿部治・野田研一・鳥飼玖美子監訳、立教大学出版社、2005年
- ④ 『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』湯浅誠著、岩波新書、2008年

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用しながら、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること
- ・制限字数に満たないものは不備扱いとする。

■ 科目終了試験評価

出題範囲はテキスト全体に及ぶため、全体をよく読んでおくこと。特に、各国の保育改革のポイントをおさえ、めざす保育について理解を深めておくこと。

基本的に押さえておきたい事項について明記されており、しかもそれについて理由が自分の言葉で推測して説明されていること。

使用テキスト

配本年度

『実践につなぐ ことばと保育』近藤幹生・竇川雅子・源証香・小谷宜路・瀧口優(ひとなる書房)

2019 年度～2020 年度

『実践につなぐ ことばと保育 改訂 2 版』近藤幹生・竇川雅子・源証香・小谷宜路・瀧口優(ひとなる書房)

2021 年度～

科目概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に示されている 5 領域のひとつに「言葉」が置かれている。領域の「言葉」のねらいと内容を理解する。そして、子どもが遊びや生活の中で、具体的な体験を通して豊かな言葉を育むために、言葉の発達の「理論」を学び理解する。また、言葉の発達を援助する教材等の研究を深め知識及び模擬保育を通し、技術(実践)力を高める。さらに子どもが言葉を獲得する過程とそれを支える環境について学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ・乳幼児を対象とした保育現場で保育者として子どもの前に立てるよう、子どもの言葉の発達と子どもへの働きかけについて理解する。
- ・領域「言葉」のねらいと内容を理解する。
- ・領域「言葉」と他領域との関係性を理解する。
- ・「言葉」の育つみちすじ(乳幼児期の発達過程と言葉の発達)を理解する。
- ・「言葉」を育むための保育者のかかわり・役割を理解する。
- ・言葉を育てるあそびについて研究する。
- ・指導計画と「言葉」について指導例を通し、模擬保育をする。

■ 科目の学習要点事項

- ・領域「言葉」のねらいと内容について
- ・領域「言葉」と他領域との関係性について
- ・「言葉」の育つみちすじ(乳幼児期の発達過程と言葉の発達)について
- ・「言葉」を育むための保育者のかかわり・役割について
- ・言葉を育てるあそびについて
- ・指導計画と「言葉」の指導と指導上の留意点

参考文献

- ①幼稚園教育要領
- ②保育所保育指針
- ③幼保連携型認定こども園教育・保育要領

■レポート評価

評価のめやす

すべての課題を通じて、自分の考えをきちんと明記されているかが大切である。

課題ごとの評価のめやす

- 1.教科書1章～3章、参考文献を手がかりとして、受講生独自にまとめているかどうか。
- 2.教科書、特に3章～5章そして、言葉環境として、9章、10章を手がかりとして、課題について独自にまとめているかどうか。

使用テキスト	配本年度
--------	------

『子ども理解とカウンセリングマインドー保育臨床の視点から』 青山久子・間藤 侑・河邊貴子著(萌文書林)	2019 年度
『社会情動的スキルを育む[保育内容 人間関係]: 乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは(実践事例から学ぶ保育内容)』 無藤隆・古賀松香著(北大路書房)	2020 年度
『対話的・深い学びの保育内容 人間関係』塚本 美知子著(萌文書林)	2021 年度～

科目概要

遊びや活動を体験する中で、乳幼児期の子どもの人間関係の発達について考える。さらに、子どもを取り巻く人々との人間関係(保護者同士・保育者同士・保護者と保育者、等)について学び、現代社会の子どもを取り巻く環境を踏まえて、「人間関係」の育成における園や施設の役割を理解する。また、様々な立場から視点を変えて考察することにより、多様な人間関係から子どもの理解を深め、保育実践に繋がる知識や技術を習得する。

学習上の目標

- 科目の到達目標
 - ・乳幼児期の人とかかわる能力の発達を知り、領域「人間関係」のねらいと内容に関連つけて理解できるようになる。
 - ・保育者や子どもの保護者等、子どもを取り巻く大人同士の人間関係を多角的に学び、現代社会における背景を踏まえて、保育における必要な課題を見出し、対応する力を身につける。
 - ・様々な場面における人間関係のあり方、人とかかわりを援助する保育者の役割について知り、具体的な場面を想定しながら、保育の工夫や配慮、留意点を説明できる。
- 科目の学習要点事項

子どもの人間関係にかかわる特性を領域「人間関係」のねらいや内容から把握し、子どもの育ちにかかわる背景を考えるうえで、子どもを取り巻く大人同士の人間関係やかかわり、保育者としての支援の方法等、関連づけて学びを進めていきましょう。人間関係の理解を深める過程において、参考文献や自分自身の体験を含む事例、新聞記事などの関連資料も合わせて学習を進めていくことが理解を深めることに繋がります。

参考文献

厚生労働省「保育所保育指針(平成 29 年告示)」
文部科学省「幼稚園教育要領(平成 29 年告示)」
内閣府 厚生労働省 文部科学省「認定こども園教育保育要領(平成 29 年告示)」
金田 利子・齋藤 政子 2006「保育内容・人間関係 (保育・教育ネオシリーズ)」同文書院
青山久子・間藤 侑・河邊貴子 2009「子ども理解とカウンセリングマインドー保育臨床の視点から」萌文書林

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を的確に理解しているか
2. 論理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点に基づいて論述され、総合的にまとめられた内容から評価する。

使用テキスト

配本年度

『新保育課程・教育課程論』金村美千子編(同文書院)

2012年度～

※なお保育士課程の学生は、必ず、厚生労働省『保育所保育指針解説書』を手に入れておくこと。厚生労働省のHPからダウンロードすることも可能である。

科目概要

本授業は、保育士資格取得のために必要な「保育の本質・目的の理解に関する科目」に分類されている科目として位置づけられている。

この科目の根拠は、平成20年に改定された保育所保育指針の中で初めて取り上げられた概念である。この用語が出された背景には、保育所の独自性と学校教育の一端を担う幼稚園との関連性および認定こども園での保育を考慮して打ち出された経緯のあることを理解した上で受講していただきたい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

保育士として、保育課程の意味を把握し、説明できる。

保育の計画をどうとらえ、どうデザインしていくかを考える能力を身につけると同時にその意図を他人に説明できるようにする。

参考文献

- ①『保育所保育指針解説書』厚生労働省(フレーベル館)
- ②『新訂第2版幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう』岡本富郎他(萌文書林)
- ③『初等教育課程入門』鯨井俊彦・岡本富郎(明星大学出版部)
- ④『乳幼児の教育保育課程論』北野幸子編(建帛社)
- ⑤『保育士のための自己評価チェックリスト』保育士のための自己評価チェックリスト編集委員会(萌文書林)

評価基準

■ レポート評価

- 1単位目のレポートは、chapter1～2をきちんと通して読んでからそれぞれの問いに答えているかどうかを見る。
- 2単位目のレポートはテキスト chapter3～6をきちんと通して読んでから、それぞれの問いに答えているかどうかを見る。

■ 科目終了試験評価

レポートを作成するために指示された箇所のみ拾い読みをする学び方では、合格答案の作成は難しい。レポートの課題に対し、全文を読んだ上で該当部分を熟読し、レポートの作成に取り組みないと科目終了試験で合格点を取得することは、難しい。それはレポート課題にある表や該当ページに限定せず、学習の要点事項にある箇所すべてにわたり出題されているからである。

「論じなさい」「ポイントを述べなさい」といった出題の場合、感想を書いても採点の対象にならない。

使用テキスト

配本年度

『改訂 テキスト 学童保育指導員の仕事』全国学童保育連絡協議会

2018 年度～2020 年度

『改訂・テキスト 学童保育指導員の仕事【増補版】』全国学童保育連絡協議会

2021 年度～

科目概要

本科目は、子どもたちの放課後全般をとらえながら学童保育とは何かについて、基本的な理解をすることである。そして、そのために学童保育の役割と指導員の仕事を学び、放課後・学校休業日の生活づくりに必要な基本的な視点等を学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1.学童保育(放課後児童クラブ)とは何か、その基本的なことを学び理解を深める。
- 2.学童保育での子どもの生活を保障する生活づくりを理解する。
- 3.子ども理解と放課後児童支援員の働きかけの基本的な視点を学び理解する。

■ 科目の学習要点事項

- 1.子ども家庭福祉政策と働く親の願い、子どもの放課後社会、学童保育の分野の役割・目的を理解する。
- 2.学童保育関連の法令等について理解する。
- 3.子どもの人権と権利、学童保育の生活の特徴、子どもをとらえる視点、障害児・配慮の必要な子どもがわかる。
- 4.学童保育に通う子どもを理解するー子どもの発達を理解(児童期)する。
- 5.安全と健康を守るという意味ー衛生・けが・事故・アレルギー・緊急時対応がわかる。
- 6.出席確認、打ち合わせ、保育計画作成、保護者へ子どもの生活を伝える・相談への対応・実務の重要性がわかる。
- 7.生活づくりとは何か、一日の生活の流れと見直し、長期休みの生活がわかる。
- 8.記録の必要性、学ぶことの必要性がわかる。
- 9.仕事内容に求められる資質・人間性と倫理観へ関心を向ける。
- 10.身近な生活からみえる学童期の子どもの様子や自分自身が通っていた学校生活を振り返り、身近な問題の時間として理解できるようにする。

参考文献

- 『放課後児童クラブ 運営指針 解説書』厚生労働省 フレーベル館 2017 年
 『入門ガイド学童保育指導員』野中賢治・片山恵子編著 (大月書店) 2011 年
 『学童保育と子どもの放課後』増山均(新日本出版社)2015 年

評価基準

■レポート評価

レポートが求めている要点をしっかりと把握して、記述されているか。

テキストの内容・用語を正しく的確に理解しているかの2点は、合格の前提である。

その上で、課題が要求している内容に沿って要点がまとめられて具体的事例を含めているか。

他の受講生のレポートと同じか、あるいはほとんど類いのレポートは、不合格の場合がある。

■科目終了試験評価

テキストの学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。

問題内容に的確に沿った解答であるか。

使用テキスト

配本年度

『改訂テキスト学童保育指導員の仕事』全国学童保育連絡協議会

2019 年度～2020 年度

『改訂・テキスト 学童保育指導員の仕事【増補版】』全国学童保育連絡協議会

2021 年度～

科目概要

本科目は、学童期の子ども全般をとらえながら放課後子ども支援とは何かについて、基本的な理解をすることである。そのために、学童期の子どもの支援と支援員の仕事を学び、放課後・学校休業日の生活づくりに必要な基本的な視点等を学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1.放課後子ども支援(学童保育)とは何か、その基本的なことを学び理解を深める。
- 2.学童保育での子どもの生活を保障する生活づくりを理解する。
- 3.子ども理解と放課後児童支援員の働きかけの基本的な視点を学び理解する。

■ 科目の学習要点事項

- 1.子ども家庭福祉政策と働く親の願い、子どもの放課後社会、学童保育分野の役割・目的を理解する。
- 2.法制化された学童保育関連の法令等について理解する。
- 3.子どもの権利、学童保育の生活の特徴、子どもをとらえる視点、障害児・配慮の必要な子どもがわかる。
- 4.学童保育に通う子どもを理解する-子どもの発達を理解(児童期)する。
- 5.健康と安全を守るという意味-衛生・けが・事故・アレルギー・緊急時対応がわかる。
- 6.出席確認、打ち合わせ、保育計画作成、保護者へ子どもの生活を伝える・相談への対応・実務の重要性がわかる。
- 7.生活づくりとは何か、一日の生活の流れと長期休みの生活がわかる。
- 8.記録の必要性、学ぶことの必要性がわかる。
- 9.仕事内容に求められる資質・人間性と倫理観へ関心を向ける。
- 10.身近な生活からみえる学童期の子どもの様子や自分自身が通っていた学校生活を振り返り、身近な問題の時間として理解できるようにする。
- 11.時間をとって上記の具体的事項の予習・復習する態度に努める。

参考文献

『放課後児童クラブ運営指針解説書』厚生労働省プレーベル館 2017 年

『学童保育と子どもの放課後』増山均 新日本出版社 2015 年

『入門ガイド学童保育指導員』野中賢治・片山恵子編著 大月書店 2011 年

評価基準

■レポート評価

レポートが求めている要点をしっかりと把握して、記述されているか。

テキストの内容・用語を正しく的確に理解しているかの2点は、合格の前提である。

その上で、課題が求める内容に沿って具体的事例を含め要点がまとめられているか。

他の受講生と同じか、ほとんど類以のレポートは不合格の場合がある。

■科目終了試験評価

テキストの学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。

問題内容に的確に沿った解答であるか。

使用テキスト

配本年度

『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—(第7版)』 飯塚美和子・桜井幸子・瀬尾弘子・曾根眞理枝・木村勝子(学建書院)	2013年度～2016年度
『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—(第8版)』 飯塚美和子・桜井幸子・瀬尾弘子・曾根眞理枝・木村勝子(学建書院)	2017年度～2020年度
『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—(第9版)』 飯塚美和子・瀬尾弘子・濱谷亮子(学建書院)	2021年度～

科目概要

小児期の望ましい栄養摂取と食生活は身体の発育のみならず、発達において重要な意義をもつ。本科目では小児期の栄養的特徴ならびに子どもの栄養、食生活を支援する保育者の役割を学び、子どもたちの食生活の基礎を築くために必要な知識や技術を学ぶ。テキスト学習に加え、本科目の領域に関連する調査資料、ガイドライン等の情報を収集し、最新の情報を十分に予習した上でレポートを作成すること。さらに、返送レポートの講評に基づき、復習し更なる理解を深めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 栄養に関する基本的知識が身に付く。
- 乳幼児期の心身の成長と栄養・食生活の関連について理解が深まる。
- 小児期疾患の特徴と食生活上の留意点について理解が深まる。
- 子どもを取り巻く食環境と食生活の問題について理解が深まる。
- 子どもたちが望ましい食生活を実現するための知識と具体的な支援方法が身に付く。

■ 科目の学習要点事項

- 栄養素のはたす役割(五大栄養素とその機能)
- 乳幼児期の発育・発達の特徴
- 乳幼児期の食生活の特徴と食事の実態
- 母乳栄養と人工栄養の特徴
- 人工栄養の調乳方法
- 離乳食の意義と、離乳食の進め方
- 幼児期の栄養・食生活上の問題
- 小児期疾患(発熱・下痢・う蝕・食物アレルギー等)の発症機序と食生活
- 発育・発達に応じた食育
- 児童福祉施設における食事と栄養
- 保育所における食育に関する指針

参考文献

- ①母子健康・栄養ハンドブック(医歯薬出版株式会社 平山宗宏監修)
- ②幼稚園教育要領(文部科学省)
- ③保育所保育指針(厚生労働省)
- ④楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～(厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長)

評価基準

■レポート評価

教科書・参考書の記述をそのまま転記し提出することは原則として認めない。

課題に求められる内容を理解した上で必要な事柄を明瞭かつ簡潔にレポートを記すこと。教科書、参考書等の図表を引用する場合は出典を明記すること。

レポートを評価する際の基準。

業務上の体験、経験に基づく主観的な内容やインターネット記事の転用等は不合格とする。子どもの発育発達の特徴や食生活について、ガイドライン、関連法規、指針等を調べ、根拠に基づく内容を自分の言葉でまとめることが合格の条件となる。

使用テキスト

配本年度

『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—』
飯塚美和子・桜井幸子・瀬尾弘子・曾根眞理枝・木村勝子(学建書院)

2012年度～

科目概要

小児期の望ましい栄養摂取と食生活は身体の発育のみならず、発達において重要な意義をもつ。本科目では小児期の栄養的特徴ならびに子どもの栄養、食生活を支援する保育者の役割を学び、子どもたちの食生活の基礎を築くために必要な知識や技術を学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

栄養に関する基本的知識を学ぶ。

乳幼児期の栄養学的特徴を学ぶ。

乳幼児期の心身の成長と栄養・食生活の関連を理解する。

小児期疾患の特徴を理解し、食生活上の留意点を理解する。

子どもを取り巻く食環境と食生活の問題点を理解し、子どもたちが望ましい食生活を実現するための知識と具体的手法を身につける。

■ 科目の学習要点事項

栄養素のはたす役割(五大栄養素とその機能)

乳幼児期の発育・発達の特徴

乳幼児期の食生活の特徴と食事の実態

母乳栄養と人工栄養の特徴

人工栄養の調乳方法

離乳食の意義と、離乳食の進め方

幼児期の栄養・食生活上の問題

小児期疾患(発熱・下痢・う蝕・食物アレルギー等)の発症機序と食生活

発育・発達に応じた食育

児童福祉施設における食事と栄養

参考文献

- ①母子健康・栄養ハンドブック(医歯薬出版株式会社 平山宗宏監修)
- ②幼稚園教育要領(文部科学省)
- ③保育所保育指針(厚生労働省)
- ④楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～(厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長)

評価基準

■レポート評価

教科書・参考書の記述をそのまま転記し提出することは原則として認めない。

課題に求められる内容を理解した上で必要な事柄を明瞭かつ簡潔にレポートを記すこと。教科書、参考書等の図表を引用する場合は出典を明記すること。

科目概要

現代社会では、子どもも様々なストレスを抱えて生きている。本科目では、子どものメンタルヘルス(精神保健)について幅広く学習していく。具体的には、メンタルヘルスの概念、ライフサイクルとメンタルヘルス(主に、幼児期、児童期、思春期の特徴と課題)、子どもの心の問題、そしてメンタルヘルス活動についても学ぶ。子どもとの関わり方、保育のあり方についても理解を深めていく。参考文献もできるだけ読み、主体的に学習を進めてほしい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. メンタルヘルスとは何かを理解する。
2. 子どもの発達と課題を理解する。
3. 子どもの心の問題について理解する。
4. メンタルヘルス活動について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. メンタルヘルスとは何か
2. 子どもの発達と課題
3. 発達障害
4. 子どもの心の問題
5. ストレス
6. 虐待
7. メンタルヘルス活動

参考文献

- ①『メンタルヘルス入門 第3版』藤本修・藤井久和編(創元社)
- ②『子どものメンタルヘルス』(「児童心理」臨時増刊 No.879 金子書房)
- ③『精神保健』林幹男・牧正興編(建帛社)
- ④『子どもの発達障害・適応障害とメンタルヘルス』安藤美華代・加戸陽子・眞田敏編(ミネルヴァ書房)
- ⑤『メンタルヘルス 学校で、家庭で、職場で』藤本修(中公新書)

評価基準

■ レポート評価

- ・概念を正しく理解しているか。
- ・課題が何を求めているかを的確に理解しているか。

■ 科目終了試験評価

- ・テキストの内容・概念を正しく理解しているか。
- ・問題内容を的確に理解しているか。

『メンタルヘルスを学ぶ 精神医学・内科学・心理学の視点から』

村井俊哉・森本恵子・石井信子編著(ミネルヴァ書房)

2019年度～

科目概要

現代社会の目まぐるしい変化や複雑化に伴い、人は日々いろいろなストレスにさらされて生きていく。本科目では、子ども(乳幼児期から思春期)と大人(青年期・成人期、特に保育者などの対人援助職にある者)の心の健康における様々な課題について理解し、その支援の方法やストレスへの対処法を学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. メンタルヘルスとは何かを理解する。
2. 胎生期・乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期における発達と発達課題を理解する
3. 胎生期・乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期において生じやすい心の問題や発達の危機を理解する。
4. ストレスとは何かについて理解する。
5. ストレス関連障害とその対処法や支援の方法について理解する。
6. 代表的な精神疾患・発達障害について理解する。
7. 産業領域における職場のメンタルヘルスについて理解する。
8. 対人援助職のメンタルヘルスについて理解し、受講者が自身のメンタルヘルスを維持しコントロールするための知識を得る。

■ 科目の学習要点事項

1. メンタルヘルス、ストレスの概念
2. 人生のそれぞれの時期における発達の概要と発達課題
3. 人生のそれぞれの時期において生じやすい心の問題と発達の危機
4. ストレス関連障害
5. 精神疾患・発達障害
6. 職場のメンタルヘルス
7. 対人援助職のメンタルヘルス

参考文献

1. 森和代(監修)石川利江・松田与理子(編)「ライフコースの健康心理学」晃洋書房
2. 宮本信也・小野里美帆(編著)「シードブック 保育にいかす精神保健」健帛社
3. 安藤美華代・加戸陽子・眞田敏(編)「子どもの発達障害・適応障害とメンタルヘルス」ミネルヴァ書房

評価基準

■レポート評価

レポート評価

*レポート記述に関して次の観点から評価する。

- ①テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
- ②課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。

*以下のようなレポートは再提出となる。

- ① 規程の分量が守られていない。
- ② ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
- ③ 他の受講生のレポートと同じか、ほとんど類似しているもの。
- ④ 誤字・脱字等が著しく多いもの、あるいは日本語の文章として逸脱しているもの。

■科目終了試験評価

- ・テキストの内容・概念を正しく理解しているか。
- ・問題内容を的確に理解しているか。

使用テキスト

配本年度

『実践 家庭支援論』 松本園子・永田陽子・福川須美・堀口美智子著(ななみ書房) 2014年度～2017年度

『実践 家庭支援論(第3版)』 松本園子・永田陽子・福川須美・堀口美智子著(ななみ書房)

2018年度～2020年度

『実践 子ども家庭支援論』 松本園子・永田陽子・福川須美・森 和子著(ななみ書房)

2021年度～

科目概要

子育て支援ニーズが生じた背景を掴みながら、子育て支援ニーズの実態と政策、実践について学びます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子育て支援の必要性(ニーズ)はいつどのように生じたのか理解します。
2. 子育て支援が必要とされる家庭状況、育児状況をデータで理解します。
3. 子育て支援政策の現状と問題点を理解します。
4. 子育て支援の実践で求められるポイントを理解します。

■ 科目の学習要点事項

1. 子育て支援問題の発生を、家族の変化、社会の変化のなかで現れる社会問題としてとらえてください。
2. 子育て支援ニーズをデータで掴むとともに事例とし理解し分析して下さい。
3. 子育てをめぐる人々の希望と現実の乖離が生み出されている現状とその背景を掴んで下さい。
4. 学習者の周辺にある子育て支援実践に引き付けて、支援実践の多様性について学んでください。

参考文献

- ① 『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』加藤邦子 牧野カツコ 井原成男 榊原洋一 浜口順子
(福村出版) 2016年
- ② 『保育学講座⑤ 保育を支えるネットワーク 支援と連携』日本保育学会 (東京大学出版会) 2016年
- ③ 『増補 母性愛神話の罫』大日向雅美 (日本評論社) 2015年

評価基準

■ レポート評価

グラフなどのデータを利用しながら、キーワードについて十分に論じているか否かを評価の基準とします。

■ 科目終了試験評価

テーマについて筋道たてて論じられていること、結論が明快であることを試験の評価基準とします。

『「生き抜く力」の育て方：逆境を成長につなげるために』蝦名玲子(大修館書店) 2021年度～

科目概要

- 1.メンタルヘルスとは何か、高負荷のストレスなど逆境においてもその捉え方や乗り越える力には個人差があることとその理由・背景(科学的根拠)を学ぶ。
- 2.ストレスへの対処スキルは育ちの環境に大きく左右されること、とくに子どもにとっては、日常生活の文脈における保育者・教師からの声かけ一つでこころの状態が180度変化すること、さらに大人との関係性も変化することを理解する。
- 3.動機付け面接の基本を理解することで、子どもへの接し方、職場における大人どうしの接し方を習得する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ストレスの本質を理解し、日常生活における様々なストレスや逆境に対する精神的しなやかさや強さは何かを理解する。
2. メンタルヘルス維持・向上のためには、意識的に環境を調整する必要があることを理解し、その環境づくりが可能なフレームワークがあることを知る。
3. 保育者・教師のメンタルヘルスが子どものメンタルヘルスにも強く影響することを肝に銘じ、子どもたちの育ちの環境の一としての立場、責任を自覚する。

■ 科目の学習要点事項

1. レジリエンスとは:精神的強さの3つの秘訣
2. 強すぎるストレス環境(逆境)を生き抜くために必要な気質と環境
3. 「健康生成論」と首尾一貫感覚(SOC):わかる感、できる感、やるぞ感
4. SOCを育むための環境に必要な3つの要件
5. 心的外傷後成長と5つの成長領域、成長を促す個人と環境の特性
6. 子どものメンタルヘルスに必要な大人の3つの基本的態度
7. 動機づけに必要な5種類のチェンジトークと4つの基本スキル
8. メンタルヘルスを支える「自信」を構成する3つの主観
9. 健康生成志向によるいじめ予防と具体的対策方法(SMART)
10. 子ども自身でもできるメンタルヘルストレーニング

参考文献

- ① 内田伸子(著)2017「子どもの見ている世界：誕生から6歳までの「子育て・親育ち」」春秋社
- ② 十一元三(著)2014「子供と大人のメンタルヘルスがわかる本：精神と行動の異変を理解するためのポイント40」講談社
- ③ 清水将之(著)2014「子どものメンタルヘルス事典」日本評論社
- ④ 本間友巳(編著)2012「学校臨床：子どもをめぐる課題への視座と対応」金子書房

■レポート評価

- 1.テキストの内容・用語・概念を正しく理解していることが表れているか。
- 2.課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。
- 3.テキストによる学習をとおして得た考察が示されているか。

*以下のようなレポートは再提出となる。

- 1.規程の分量が守られていない、あるいはレポートとしての体裁が整っていないもの。
- 2.ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
- 3.他の受講生のレポートと同じかほとんど類似しているもの。
- 4.誤字・脱字等が多いもの、日本語の文章として逸脱しているもの。
- 5.なぐり書き等書字が崩れており読解不能なもの。

■科目終了試験評価

- 1.テキストの内容・用語・概念を正しく理解していることが表れているか。
- 2.問題内容に的確に沿った解答であるか。
- 3.誤字・脱字等がなく、丁寧な字で書かれ、日本語の文章として誰もが理解できるものであるか。

『子どもの臨床発達心理学 ～未来への育ちにつなげる理論と支援』

西本絹子、古屋喜美代、常田秀子(萌文書林)

2019 年度～

科目概要

主に乳幼児期から児童期・思春期における、子どもの発達上に現れる様々な臨床的問題を取り上げ、背景にある発達のメカニズムと、教育・保育・育児現場における具体的な支援の方法を学ぶ。発達の視点からどのように問題を捉え、どのように対応していくかに関する発達臨床の理論と方法の基礎を理解する。

予習・復習に必要な時間はそれぞれ1時間30分である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの問題を捉えるための臨床発達心理学の理論的基礎(支援の原理、発達の基盤を成す力)を理解する。
2. 乳児期・幼児期・思春期の発達の特徴と代表的な発達障害(知的障害・自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害)のメカニズムと支援の基礎に関する知識を得る。
3. 社会のひずみから生まれる様々な問題状況(いじめ・不登校、児童虐待や子どもの貧困等の家庭養育問題等)の発生のメカニズムと支援の基礎を理解し、それらの問題に積極的に目を向ける態度を身に付ける。
4. 子どもの発達支援・障害支援の様々な方法に関して基礎的な知識を得て、現実には生じる様々な問題に対してどのような支援を行うかに関して思考することができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 臨床発達心理学とは何か
発達の視点から問題を捉えるとはどういうことか
発達支援の原理
2. 発達の基盤を成す力
アタッチメント 言語・コミュニケーション・遊びの発達 自己の発達と自尊感情
3. 障害の理解と支援:知的障害
4. 障害の理解と支援:自閉症スペクトラム障害(ASD)
5. 障害の理解と支援:注意欠如・多動性障害(ADHD)
6. 障害の理解と支援:学習障害(LD)
7. 社会のひずみと子どもの困難:いじめ
8. 社会のひずみと子どもの困難:不登校
9. 社会のひずみと子どもの困難:子どもの貧困
10. 社会のひずみと子どもの困難:児童虐待
11. 障害支援の原理と方法:アセスメント
12. 障害支援の原理と方法:支援活動の展開 アセスメントから支援へ
13. 障害支援の原理と方法:コンサルテーションと地域支援
14. 障害支援の原理と方法:家族支援

参考文献

1. 西本絹子(編著)2008「学級と学童保育で行う特別支援教育」金子書房
2. 日本発達心理学会(編)「発達心理学事典」丸善出版
3. 杉山登志郎(著)2007「子ども虐待という第四の発達障害」学習研究社

評価基準

■レポート評価

*レポート記述に関して次の観点から評価する。

- ① テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
- ② 課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。

*以下のようなレポートは再提出となる。

- ① 規程の分量が守られていない。
- ② ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
- ③ 他の受講生のレポートと同じかほとんど類似しているもの。
- ④ 誤字・脱字等が著しく多いもの、あるいは日本語の文章として逸脱しているもの。

『子どもの臨床発達心理学 ～未来への育ちにつなげる理論と支援』

西本絹子、古屋喜美代、常田秀子(萌文書林)

2019 年度～

科目概要

主に乳幼児期から児童期・思春期における、子どもの発達上に現れる様々な臨床的問題を取り上げ、背景にある発達のメカニズムと、教育・保育・育児現場における具体的な支援の方法を学ぶ。発達の視点からどのように問題を捉え、どのように対応していくかに関する発達臨床の理論と方法の基礎を理解する。

予習・復習に必要な時間はそれぞれ1時間30分である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの問題を捉えるための臨床発達心理学の理論的基礎(支援の原理、発達の基盤を成す力)を理解する。
2. 乳児期・幼児期・思春期の発達の特徴と代表的な発達障害(知的障害・自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害)のメカニズムと支援の基礎に関する知識を得る。
3. 社会のひずみから生まれる様々な問題状況(いじめ・不登校、児童虐待や子どもの貧困等の家庭養育問題等)の発生のメカニズムと支援の基礎を理解し、それらの問題に積極的に目を向ける態度を身に付ける。
4. 子どもの発達支援・障害支援の様々な方法に関して基礎的な知識を得て、現実には生じる様々な問題に対してどのような支援を行うかに関して思考することができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 臨床発達心理学とは何か
発達の視点から問題を捉えるとはどういうことか
発達支援の原理
2. 発達の基盤を成す力
アタッチメント 言語・コミュニケーション・遊びの発達 自己の発達と自尊感情
3. 障害の理解と支援:知的障害
4. 障害の理解と支援:自閉症スペクトラム障害(ASD)
5. 障害の理解と支援:注意欠如・多動性障害(ADHD)
6. 障害の理解と支援:学習障害(LD)
7. 社会のひずみと子どもの困難:いじめ
8. 社会のひずみと子どもの困難:不登校
9. 社会のひずみと子どもの困難:子どもの貧困
10. 社会のひずみと子どもの困難:児童虐待
11. 障害支援の原理と方法:アセスメント
12. 障害支援の原理と方法:支援活動の展開 アセスメントから支援へ
13. 障害支援の原理と方法:コンサルテーションと地域支援
14. 障害支援の原理と方法:家族支援

参考文献

1. 西本絹子(編著)2008「学級と学童保育で行う特別支援教育」金子書房
2. 日本発達心理学会(編)「発達心理学事典」丸善出版
3. 杉山登志郎(著)2007「子ども虐待という第四の発達障害」学習研究社

評価基準

■レポート評価

*レポート記述に関して次の観点から評価する。

- ①テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
- ②課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。

*以下のようなレポートは再提出となる。

- ① 規程の分量が守られていない。
- ② ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
- ③ 他の受講生のレポートと同じか、ほとんど類似しているもの。
- ④ 誤字・脱字等が著しく多いもの、あるいは日本語の文章として逸脱しているもの。

『家族援助論』 名倉啓太郎 監修(同文書院)

2012年度～

科目概要

本授業は、教育学や心理学・社会学以外の家庭教育に関する様々な学問的アプローチを知る。その学習を通じて、子どもが社会人として自立するまでに、家庭で行われること、親に求められていることを国家的・社会的レベルで考えることを通じて、家庭教育のあり方について考えることができることを目標とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

家族・家庭に関する教育的な知識特に家族と子育ての問題を中心に習得すると共に、その知識を応用して、現代的な課題とその解決を考えることができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

この科目は、通学課程において、保育を学ぶ3年生の後期の履修を想定していることから、通信教育課程においても学部の教育を3年間受けた学生の履修を想定している。

その理由は、かつて家庭教育は、きわめて私的な行為としてとらえられていたが、今や社会的営みという視点の欠かすことのできない概念となっている。そのため教育学、保育学、社会学といった多岐の学問の基礎の上にたつ学びを必要とする。

従って、まずは子ども臨床コースの各必修科目、特に教育原理・保育学そして「子育て支援論」の履修を済ませてからこの科目を選択されることを強く勧める。

さらに3年次後期の履修を想定していることから、レポートの課題および試験問題についても教科書や参考文献の学びの上にとった、学習者の所見をもとられるようになっている。そのことをあらかじめ承知の上での履修をお願いしたい。従って、卒業単位の不足を満たすための安易な履修のないことを期待する。

参考文献

- ① 森岡清美、望月嵩『新しい家族社会学』(培風館)
- ② 山内昭道監修『子育て支援用語集』(同文書院)
- ③ 大和礼子ほか『男の育児 女の育児』(昭和堂)
- ④ 幼児保育研究会『最新保育資料集 2019』(ミネルヴァ書房)
- ⑤ 金田昭三『学び楽しむ子育てのヒント』(同文書院)

評価基準

■レポート評価

1単位目のレポートは、序章から4章をきちんと通して読んでから問いに答えているかどうかを見る。

2単位目のレポートはテキスト5章から終章をきちんと通して読んでから、それぞれの問いに答えているかどうかを見る。

■科目終了試験評価

レポートの課題に対し、対象部分を熟読した上で、作成しないと科目終了試験で合格点を取得することは、難しい。それはレポート課題にある表や該当ページに限定せず、学習の要点事項にある箇所すべてにわたり出題されているからである。

「所見を述べなさい」「論じなさい」といった出題の場合、感想を書いても採点の対象にならない。

『乳児期の発達と生活・あそび』 長瀬美子(ちいさいなかま社)

2018年度～

科目概要

0歳から3歳までの発達過程と保育方法・保育内容を理解し、さらに自我形成や他者との関係性の育ちなどについて学びながら、乳児保育を実践的に理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 乳児保育の基本を実践的に理解し、自分自身が保育を進めることのできる力量を培う。
- ② 3歳未満児の保育上の課題に対応することができるようにする。
- ③ かみつきなど保育上のトラブルを発達的に理解し理論的に説明する。

■ 科目の学習要点事項

- ① 0歳児、1歳児、2歳児の発達的特徴をおさえること
- ② 0歳児保育、1歳児保育、2歳児保育の保育内容を構造的に理解すること
- ③ 子どもをつなげていく遊びのあり方について理解すること

参考文献

- ① 『育ちのきほん—0歳から6歳』神田英雄著(ひとなる書房)
- ② 『0歳から3歳—保育・子育てと発達研究を結ぶ』神田英雄著(ちいさいなかま社)
- ③ 『乳児の生活と保育—実践編』松本園子他著(ななみ書房)
- ④ 『伝わる心がめばえる—2歳児の世界—』神田英雄著(かもがわ出版)
- ⑤ 『かかわりを育てる乳児保育』全国保育問題協議会(新読書社)

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用し的確に内容を把握した上で、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。

■ 科目終了試験評価

出題範囲はテキスト全体に及ぶため、全体をよく読んでおくこと。特に、保育者の資質と専門性、職務内容については、理解を深めておくこと。基本的に押さえておきたい事項について明記されており、しかもそれについて理由が自分の言葉で推測して説明されていること。

使用テキスト

配本年度

『乳児期の発達と生活・あそび』 長瀬美子(ちいさいなかま社)

2019 年度～

科目概要

0 歳児から 5 歳児までの発達過程と保育方法・保育内容を理解し、さらに自我形成や他者との関係性の育ちなどについて学びながら、乳幼児の生活と遊びを実践的に理解する。予習復習については、テキストをよく読みこんでレポートを作成することが必要であり、3時間程度が望ましい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 乳幼児保育の基本を実践的に理解し、自分自身が保育を進めていく事ができるように力量を培う。
- ② 乳幼児の保育上の課題に対応することができるようにする。
- ③ かみつき・幼児期のケンカなど、保育上のトラブルを発達的に理解し理論的に説明できるようにする。

■ 科目の学習要点事項

- ① 0 歳児から 5 歳児の発達の特徴をおさえること。
- ② 0 歳児保育から始まり、就学を見通して行われる 5 歳児保育までの、保育内容を構造的に理解すること。
- ③ 子どもをつなげていく遊びのあり方について理解すること。

参考文献

- ① 幼児期の発達と生活・あそび 長瀬美子 (ちいさいなかま社)
- ② 育ちのきほん—0 歳から 6 歳 神田英雄 (ひとなる書房)
- ③ 伝わる心がめばえる—2 歳児の世界— 神田英雄 (かもがわ出版)

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用しながら、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。

使用テキスト

配本年度

『新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育相談支援』

福丸由佳・安藤智子・無籐隆 編著（北大路書房）

2013年度～2016年度

『シードブック 保育・教育相談支援 子育て、子育てを支える』

太田光洋 編著（建帛社）

2017年度～

科目概要

複雑化、多様化している現代の子育てにおいて、悩みを抱える保護者は少なくないと考えられる。そのような状況の中で、保育現場が持つ役割は大きくなっている。ここでは、保育相談支援の意義、保育所等児童福祉施設における保護者への支援の実際、地域に向けた保育相談の取り組みについて学ぶ。また、保育相談支援のための視点と方法についても学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 保育相談支援の意義が理解できる。
2. 保育所等児童福祉施設や地域の子育て支援における保護者相談支援の実際について理解できる。
3. 保育相談支援における相談の基本・基礎が理解でき、方法や技能が身につく。

■ 科目の学習要点事項

1. 保育における専門性を生かした相談支援の意義
2. 子どもの育ちの理解とかかわり・支援
3. 保育所における保護者支援の実際
4. 児童養護施設等における保護者支援の実際
5. 地域における保護者支援の実際
6. 保育相談支援における基本的姿勢と技法

参考文献

- ①『学びの物語の保育実践』大宮勇雄著（ひとなる書房）2010年
- ②『続 子ども虐待と保育園』保育と虐待対応事例研究会編（ひとなる書房）2009年
- ③『演習 保育相談支援』小林育子（萌文書林）2010年
- ④『支えあい育ちあう乳幼児期の集団づくり』全国幼年教育研究協議会 集団づくり部会編（かもがわ出版）2012年

評価基準

■ レポート評価

- ・テキストを熟読し、内容を正しく理解しているか。
- ・課題が何を求めているかを的確に理解しているか。
- ・適切な文章構造となっているか。

『子育て支援に生きる心理学—実践のための基礎知識—』

繁多進編著（新曜社）

2019年度～

科目概要

生涯発達のプロセスを踏まえ、子どもの育ちの支援のあり方を考察し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。また、子育てに深くかかわる心理学の各分野の基礎的な理論を習得し、養育者へのサポートのあり方を学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の発達課題等について理解する。
2. 家族・過程の意義や機能を理解するとともに、親子関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。

■ 科目の学習要点事項

テキストは、家庭と園と地域における子育て支援の現状や課題、子育てに深くかかわる心理学の分野である、発達心理学、教育心理学、認知心理学、臨床心理学、精神分析学、比較行動学の基礎的な理論がまとめられています。第一に、子育て支援と心理学との関係性、第二に子育て支援に生きる心理学的支援のあり方、第三に保育者として子育て当事者にどのように対応するか、第四に育児不安など子育て困難への支援のあり方について学習し、それぞれの要点を掴んでください。そのうえで、子どもと家族のおかれた現状を理解し、子育て家庭をめぐる社会状況や課題を理解していただきたいと思います。

参考文献

- ① 無藤隆編著 子育て支援の心理学—家庭・園・地域で育てる—(有斐閣)
- ② 齋藤政子編著 安心感と憧れが育つ ひとものこと 環境との対話から未来の希望へ
- ③ 保育所保育指針
- ④ 心理科学研究会編 育ちあう乳幼児心理学(有斐閣)

評価基準

■ レポート評価

テキストを引用する場合は、執筆者の名前と発行年、ページを括弧書きで挿入すること、そのうえで、まとめていくこと。

■ 科目終了試験評価

テキストの内容を理解しつつ、それを踏まえて自分の考察を適確に論述すること、また前途のように、テキストを引用する場合は、執筆者の名前と発行年、ページを括弧書きで挿入することで、そのうえで、まとめていくこと。

『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ』吉田眞理他(萌文書林)

2020年度～

科目概要

援助対象となる子どもには、多様な専門職が関わることになるが、その中でも、直接援助を行う保育士の役割は非常に重要である。そこで、保育士による援助実践や援助計画について、障害や虐待などの事例検討を通じて学びながら児童福祉施設における保育士の役割を理解し、実践能力を身につける。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

援助実践や援助計画について事例検討を行う。その中で、子どもの生活の実際とそれを取り巻く環境について理解を深め、そこで必要となる実践能力を習得する。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会的養護とこどもの権利
2. 社会的養護における援助計画と援助の実際
3. 社会的養護とソーシャルワーク
4. こどもといじめ
5. こどもと虐待問題

参考文献

『子どものいじめと「いのち」のルール』岡本富郎 創成社

『医療現場の保育士と障がい児者の生活支援』柏女霊峰(生活書院)

『児童養護施設のソーシャルワークと家族支援ー ケース管理のシステム化とアセスメントの方法』北川清一(明石書店)

『応用行動分析学から学ぶ子ども観察力&支援力養成ガイドー発達障害のある子の行動問題を読み解く!』平澤紀子(学研教育出版)

『子ども虐待と保育園ー事例研究と対応のポイント』保育と虐待対応事例研究会(ひとなる書房)

『発達障害に気づかない大人たち』星野仁彦(祥伝社)

『保育者は幼児虐待にどうかかわるか』春原由紀・土屋葉(大月書店)

評価基準

■ レポート評価

1. 課題の内容を的確に理解しているか。
2. 論理的・説得的な記述ができているか。
3. 独自性のある意見が述べられているか。

■ 科目終了試験評価

テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、児童養護の方法について理解する上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。また、設問のポイントを把握し、要点を適切に記述しているか、論理展開や考察が適切かどうかを評価する。

『子どものいじめと「いのち」のルール』岡本富郎(創成社)

2018年度～

科目概要

子どものケアのあり様は、社会・文化・環境との相互作用のもと、社会的に構成されている。本講義では、①社会学や心理学などの諸学問における基本的概念を理解し、子ども期のケアにおける様々な社会現象・社会問題に応用しながら考えられるようになること、②個人的な出来事として経験されるモノゴトに潜む社会性について考えられるようになること、の2点を目的・ねらいとする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1.子どものケアのあり様を規定する、社会・文化・環境の構造について理解する。
- 2.社会・文化・環境要因を重視した批判的思考力を養う。

■ 科目の学習要点事項

とりあげられているテーマ・問題の時代的背景や現状、理論的背景や概念定義など、それぞれの事項について丁寧に理解することを通して、簡潔な論述ができるように学習を進めていきましょう。それぞれの理解を深める過程において、派生的に官公庁の白書や統計データ、新聞記事などにふれ、テーマ・問題に関係する諸機関が、どのような対応や言説を展開しているのかといった社会的反応を、規範的思考からいったん距離をおきながら、分析的に把握するよう心掛けてください。

参考文献

- 『これからの子ども社会学』アラン・プラウト著・元森絵里子訳 2017(新曜社)
『逸脱行動論』鮎川潤 2006(新訂版)放送大学教育振興会
『学校と暴力』今津孝次郎 2014(平凡社)
『「子どもの自殺」の社会学・「いじめ自殺」はどう語られてきたのか』伊藤茂樹 2014(青土社)
『いじめ自殺－12人の親の証言』鎌田慧 2007(岩波書店)
『「いじめ自殺」の社会学』北澤毅 2015(世界思想社)
『安心感と憧れが育つひと・もの・こと』齋藤政子編 2017(明星大学出版部)
『子どもの発達社会学－教育社会学入門』住田正樹・高島秀樹 2011(北樹木出版)
『子育ての会話分析－おとなと子どもの「責任」はどう育つか』高田明・嶋田容子・川島理恵 2016(昭和堂)
『幼稚園で子どもはどう育つか－集団教育のエスノグラフィ』結城恵 1998(有信堂)

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を的確に理解しているか
2. 倫理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点にもとづいて、評価する

■科目終了試験評価

テキストを基礎として参考文献などへの発展的学習が進められているかを評価する。また、上記に加えて論述の論理的展開や考察が適切かどうかについても評価する。

『リスク社会のライフデザイン 変わりゆく家族をみすえて』

宮本みち子・岩上真珠(放送大学教育振興会)

2019 年度～

科目概要

家族や地域社会における大人との信頼関係を基盤とした、見守られながら育ち育てあうことや、多様な属性や特性を持つ他者を排除することなく親しみ支えあうための生活構造と支援の内容・方法・技術について学ぶことをとおして、保育所保育指針に示される保育の内容(養護および教育に関わる保育の内容)が、家族や地域社会との相互関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。

学習上の目標

■科目の到達目標

1. 家族や地域がどのように変化してきたのか、また現在、どうあるのかについての基本的学びを通して、多様な生活の在り方を肯定的に受容するとともに専門的支援の在り方についての理解を深める。
2. 子どもと家族、子どもと地域、家族と地域、男性と女性、親子関係、など多様なトピックについて学ぶことを通して、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。

■科目の学習要点事項

各章でとりあげられているトピックについて全体を把握するとともに、キーワードについてしっかりと定義できるように学ぶとともに、自分自身の生活史を相対化し、他者の生活のありようを病理であると一方的に非難するのではなく受容的に関わることができるよう、学習を進めていきましょう。それぞれの理解を深める過程において、派生的に官公庁の白書や統計データ、行政資料、新聞記事などについて調べ学習を進めることも理解を深めるコツです。

参考文献

清水新二 2014『臨床家族社会学』放送大学教育振興会

岩間暁子・大和礼子・田間泰子 2015『問いからはじめる家族社会学』有斐閣

野辺陽子・松木洋人・日比野由利・和泉広恵・土屋敦編 2016『〈ハイブリッドな親子〉の社会学』青弓社

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を的確に理解しているか
 2. 論理的・説得的な記述が行えているか
 3. 独自性のある意見が述べられているか
 4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか
- の4点にもとづいて、評価する

使用テキスト

配本年度

『乳幼児の造形教材集 ー感性の発達にあった表現活動』梅澤啓一著(日本標準)

2012年度～2017年度

『安心感と憧れが育つひと・こと・もの』斎藤政子著(明星大学出版部)

2018年度～

科目概要

乳・幼児の表現の発達について全般的に理解する。生活に根ざした表現活動のありかたを探り、豊かな表現を生み出す基盤について考える。事例や映像資料を通して生活や遊びの場面での乳幼児の素朴な表現・造形・音楽・言語・身体表現等の理解を深め、その子らしい表現を育む遊びや活動の支援を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ・「領域・表現」の内容、乳幼児の生活や遊びにおける、表現の特徴、表現の発達、他者とのコミュニケーションにおいて表現が果たす役割を理解する。
- ・様々な表現の基礎的な知識、技能を学び、身近な環境を工夫して表現することを楽しみ、共感し合う乳幼児の表現活動を理解する。
- ・乳幼児の生活や遊びの中での素朴な表現に共感して豊かな感性や表現力を育むための保育者のあり方を考え、深める。

■ 科目の学習要点事項

発達の特徴を理解することを基盤にすると共に、実際の指導に必要ないろいろな教材の特徴や指導のポイントについても具体的に学習する。

参考文献

- ①『子どもの発達と描く活動』新見俊昌著(かもがわ出版)
- ②『保育所保育指針』
- ③『幼稚園教育要領』

評価基準

■ レポート評価

課題に沿った演習・レポートを提出する。

レポートのまとめ方、作品の内容、受講態度で評価します。

使用テキスト

配本年度

『障害児保育ワークブック』 星山麻木(萌文書林)

2013 年度～2017 年度

『障害児保育ワークブック<第 2 版>』 星山麻木(萌文書林)

2018 年度～

科目概要

障害児保育の理想・基礎理論を保育の実践として役立てられるように学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

保育の実践において、特別な支援を必要とする乳幼児の障害特性の理解と支援方法を理解し、基礎的・実践的な力を養う。

■ 科目の学習要点事項

- ・障害児と特別支援を必要とする子どもの理解
- ・障害特性の理解
- ・支援方法の理解
- ・ケーススタディ

参考文献

- ①『あなたへのおくりもの』星山麻木著(河出書房新社)
- ②『よくわかる障害児保育』尾崎康子他(ミネルヴァ書房)
- ③『多様な子どもたちの発達支援』藤原里美(学研教育みらい)
- ④『障害児保育の理論と実践』堀智晴他(ミネルヴァ書房)

評価基準

■ レポート評価

事例を通じて、障害特性に配慮すること。家庭環境という視点を入れること。連携についても論じる際に考察を加えらるとなお良い。

使用テキスト

配本年度

『障害児保育ワークブック＜第2版＞』 星山麻木(萌文書林)

2019年度～

科目概要

障害児保育の基礎理論を保育の実践として役立てられるように学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

特別な支援を必要とする乳幼児の障害特性の理解と支援方法を理解し、基礎的・実践的な力を養う。

■ 科目の学習要点事項

- ・障害児と特別支援を必要とする子どもの理解
- ・障害特性の理解
- ・支援方法の理解

参考文献

- ①『あなたへのおくりもの』星山麻木著(河出書房新社)
- ②『多様な子どもたちの発達支援』藤原里美(学研教育みらい)
- ③『はじめての療育』藤原里美(学研ヒューマンケアブックス)

評価基準

■ レポート評価

事例を通じて、障害特性に配慮すること。愛着の観点から家庭環境という視点を入れること。自分の考えをしっかりと書き込むことが大切です。

使用テキスト

配本年度

『多様な子どもたちの発達支援 なぜこの行動？なぜこの対応？理解できる10の視点』

藤原里美(学研教育みらい) 2019年度～

科目概要

障害児保育の基礎理論を保育の実践として役立てられるように学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

特別な支援を必要とする乳幼児の保育実践を行うために必要な理論と、保育技術を理解し、自分で考え、保育を構築できる力を養う。

■ 科目の学習要点事項

- ・特別支援を必要とする児へ向き合い方、アプローチ、支援理論、支援技術についての理解
- ・様々なケースについてアセスメントを行い、自身で支援が構築できる

参考文献

- ①『多様な子どもたちの発達支援:園内研修ガイドブック』藤原里美(学研教育みらい)
- ②『自閉症スペクトラムのある子を理解し育てる本』藤原里美監修(学研プラス)
- ③『発達障害のある子を理解して育てる本』藤原里美監修(学研プラス)
- ④『障害児保育ワークブック(第2版)』星山麻木(萌文書林)

評価基準

■ レポート評価

3つのケースを通して、実際の保育現場での支援を想定していること。
それぞれの特性に応じた支援理論や、支援方法が選択され、自身で支援を考えていること。

『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』加藤邦子・井原成男他(福村出版)

2019 年度～

科目概要

子ども家庭支援の意義と目的を理解し、保育の専門性を活用した子ども家庭支援の意義と基本を学ぶ。また、地域における子育て家庭に対する支援体制を理解し、実際のニーズに応じた多様な支援の展開過程と関連諸機関との連携・協力、地域資源の活用法、要保護児童等の支援、について理解を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子ども家庭支援と保育の専門性についての基本的学びをとおして、当事者およびニーズと専門的支援の在り方についての理解を深める。
2. 実際のソーシャルワークのプロセスについて知るとともに、実践力を養う。

■ 科目の学習要点事項

各章でとりあげられているトピックについて、その社会的背景や理論的背景、概念定義などを丁寧に理解することを通して、簡潔な論述ができるように学習を進めていきましょう。それぞれの理解を深める過程において、派生的に官公庁の白書や統計データ、行政資料、新聞記事などについて調べ学習を進めることで、トピックに関係するソーシャルワークの展開過程について理解を深めるよう心掛けてください。

参考文献

吉田幸恵・山縣文治編 2019『新版 よくわかる子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房

大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編 2014『よくわかる子育て支援・家庭支援論』ミネルヴァ書房

日本子どもを守る会『子ども白書』(各年版)森の泉社

評価基準

■ レポート評価

1. 課題内容を的確に理解しているか
2. 論理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点にもとづいて、評価する

■ 科目終了試験評価

テキストを基礎として参考文献などへの発展的学習が進められているかを評価する。また、上記に加えて論述の論理的展開や考察が適切かどうかについても評価する。

『保育の計画と方法 保育・教育ネオシリーズ3』小笠原圭・ト田真一郎編著

2019年度～

科目概要

保育の内容の充実と質の向上を行うために必要な保育の計画と評価について理解する。またそのために保育で立案する全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法について学ぶ。またその計画が保育者の子ども理解に基づく内容であること、そして計画立案後の実践、実践後の省察と評価、改善のプロセスについても、具体的に学ぶ。

●期待される主体的な学びの概要

保育の計画と評価はただ保育の計画を立案する知識や技術を身につける科目ではない。保育実践における子ども理解、保育者理解、保育所理解が基礎となる。まずは実習や保育に関わる実践事例からの学びを通して、その基礎を深めてほしい。そこから計画を利用した保育の質の向上や保育の計画の必要性について学びが深めることができる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ・子ども理解を踏まえた保育の質の向上と保育内容の充実に資する保育の計画と評価について理解を深めることができる。
- ・保育の計画についてその意義について学び、子ども理解、様々な保育実践に基づき立案することができる。
- ・計画、実践、省察・評価、改善のプロセスの循環とその全体構造を、子ども理解との関連で能動的にとらえることができる。

■ 科目の学習要点事項

- ・保育の計画は幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と立案するための指針が異なるため、その根拠となる要領、指針をしっかりと学ぶこと。
- ・保育の計画を立案する上で重要となるのが、子ども理解、保育者理解、施設理解である。それぞれの役割の違い、根拠法、対象者、そして現在、それらを取り巻く社会状況や課題について日々のニュース等を通して学ぶこと。

参考文献

- ・平成30年3月 保育所保育指針解説／厚生労働省編 2018年3月
- ・平成30年3月 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 文部科学省・厚生労働省著 2018年3月
- ・平成30年3月 幼稚園教育要領解説／文部科学省著 2018年3月
- ・学びを支える保育環境づくり:幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成 高山静子 2017年5月17日
- ・子どもらしさを大切にする保育—子ども理解と指導・援助のポイント 師岡章 2015年4月

評価基準

■レポート評価

レポートを評価する基準として、教科書を十分に読み込み、参考文献等も参照しながら、出された課題に正対し、十分考察し、自分の言葉でまとめていること。

■科目終了試験評価

科目終了試験については、教科書を十分に読み込み、科目終了試験の設題に沿って的確に述べられていること。

PM3220	子育て支援
--------	-------

担当教員	佐々木 沙和子	受講方法	SR
------	---------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会 演習・保育と保護者への支援—保育相談支援—』 小原敏郎・橋本好市・三浦主博(みらい) 2019年度～2020年度

『学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会 演習・保育と子育て支援』 小原敏郎・橋本好市・三浦主博(みらい) 2021年度～

科目概要

保育の専門性を活用した保護者に対する子育ての相談、助言、情報提供の仕方、その展開過程について理解する。具体的には、多様な場面や対象、ニーズに即した支援の内容・方法・技術について実践事例等を通じて学ぶ。

学習上の目標

■科目の到達目標

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供の展開について理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通じて具体的に理解する。

■科目の学習要点事項

1. 保育士の行う子育て支援の特性
 - (1) 子育て支援の理解
 - (2) 保護者のニーズへの気づきと多面的な理解
 - (3) 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
2. 保育士の行う子育て支援の展開
 - (1) 子ども及び保護者の状況・状態の把握
 - (2) 支援の計画と環境の構成
 - (3) 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
 - (4) 職員間の連携・協働
 - (5) 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
3. 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)
 - (1) 保育所等における支援
 - (2) 地域の子育て家庭に対する支援
 - (3) 障害のある子や特別な配慮を要する子及びその家庭に対する支援
 - (4) 子ども虐待・要保護児童に対する支援
 - (5) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

参考文献

中川信子「Q&A で考える保護者支援:発達障害の子どもの育ちを応援したいすべての人に」学苑社出版 2018 年
大豆田啓友・森上史朗・太田光洋「よくわかる子育て支援・家族援助論(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)」ミネルヴァ書房 2014 年

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を的確に理解しているか
2. 論理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点にもとづいて、評価する。

使用テキスト

配本年度

- ①『社会福祉学(New Liberal Arts Selection)』平岡公一、杉野昭博、所道彦、鎮目真人(有斐閣)2014年度～
②『保育者のための子ども虐待対応の基本』保育と虐待対応事例研究会編著(ひとなる書房)2020年度～
①②は、セットで配本

科目概要

本科目では、①社会福祉の概念と対象、その方法について、子ども・障害・高齢・貧困といった各分野における人々の生活構造とその実際について、②子ども福祉および社会的養護の歴史的な成り立ちや法制度、現状の理解と諸問題への対応方法について、を学ぶことを課題とする。

学習上の目標

1. 社会福祉・子ども福祉・社会的養護における、学問・制度・実践体系について理解する
2. 社会福祉・子ども福祉・社会的養護における、概念・対象・方法について理解する
3. 社会福祉・子ども福祉・社会的養護の役割と課題
4. 子どもの成長・発達支援および家族支援の専門職(子育て・子育てを支える専門職)としての保育者・教師のあり方・および連携のありかたについて理解する

■ 科目の到達目標

上記学習上の目標を達成し、現場における保育・教育実践の担い手、および、ソーシャル・アクションの担い手となる力量を養う

■ 科目の学習要点事項

1. ソーシャルワークの展開
2. 福祉国家の形成と展開、社会政策・社会保障・社会福祉制度の概要
3. 貧困・低所得、子ども、障害者、高齢者、コミュニティの福祉的理解
4. ニード中心のケアとは何か

参考文献

- 『障害児者へのサポートガイド』新井英靖 2007(中央法規出版)
- 『明日の子供たち』有川浩 2014(幻冬舎)
- 『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く98の論点』福祉社会学会編 2013(中央法規出版)
- 『私たち抜きに私たちのことを決めないで 障害者権利条約の軌跡と本質』藤井克徳 2014(やどかり出版)
- 『社会福祉キーワード 補訂版』平岡公一編 2002(有斐閣)
- 『健康で文化的な最低限度の生活』柏木ハルコ(小学館)
- 『ちいさいひと 青葉児童相談書物語』來竹桃ジシ・水野光博・小宮純一(小学館)
- 『障害のある方への接遇マニュアル』東京都心身障害者福祉センター編集 2006 改訂版 ☆
- 『発達障害者支援ハンドブック 2015』東京都保健福祉局 2015 ☆
- 『知的障害・発達障害のある人への合理的配慮』坂爪一幸・湯汲英史 2015(かもがわ出版)
- 『陽のあたる家 生活保護に支えられて』さいきまこ(秋田書店)
- 『凍り付いた瞳』シリーズ ささやななえ(集英社)
- 『発達障害の子どもたち』杉山登志郎 2007(講談社)
- 『良い支援?』寺本晃久、岡部耕典、末永弘、岩橋誠治著 2008(生活書院)
- 『どんぐりの家』山本おさむ(小学館)
- 『児童養護施設運営指針』 ☆
- 『児童養護施設運営ハンドブック』 ☆
- 『乳児院運営指針』 ☆
- 『乳児院運営ハンドブック』 ☆
- 『母子生活支援施設運営指針』 ☆
- 『母子生活支援施設運営ハンドブック』 ☆
- ※☆印の付いているものは、ウェブページよりダウンロードが可能です。

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を適確に理解しているか
 2. 論理的・説得的な記述が行えているか
 3. 独自性のある意見が述べられているか
 4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか
- の4点にもとづいて、評価する。

■科目終了試験評価

テキストを基礎とした学習が進められ、キーワード(定義の確認)や歴史的変遷に関する理解が得られているかを評価する。また、上記に加えて論述の論理的展開や考察が適切かどうかについても評価する。なお、テキスト『社会福祉学』の事項検索にある青字は、重要ワードであることを申し添える。その他、社会的養護の指針やハンドブックからも用語を出題する。

使用テキスト	配本年度
--------	------

『相談援助演習〔第2版〕』福祉臨床シリーズ編集委員会編(弘文堂)	2014年度～2018年度
①『相談援助演習〔第3版〕』福祉臨床シリーズ編集委員会編(弘文堂)	2019年度～
②『新保育ライブラリ 保育相談支援』北大路書房	2015年度～
①②はセットで配本	

科目概要

子どもの「お預かり」からケアワークとしての保育へ、そしてソーシャルワークとしての保育へと、保育の専門性の深化や変容が求められつつある社会的な状況を踏まえて、相談支援の意義と方法を学ぶ。

下記の「学習要点事項」については、試験に出されるだけでなく、実務においても重要だと思われる事項についてあげておいた。単にテキストを読むだけでなく、参考文献や社会福祉の用語事典を図書館で当たったり、インターネットで検索したりするなど、積極的に「調べ学習」されることを期待したい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ソーシャルワークの体系を、保育と関連づけて理解する。
2. 相談支援における諸概念や意義を、保育と関連づけて理解する。
3. 保育の事例を、相談支援の枠組みで判断できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会福祉、および保育士にとっての相談支援の意義
2. ソーシャルワークの体系——ケースワーク・グループワーク・コミュニティーワーク・社会福祉関連技術
3. バイステックのケースワークの原則
4. ケースワークの過程——インテーク・アセスメント・「隠されたニーズ」
5. 相談支援における「面接」——面接のプロセス、具体的な面接の技法
6. 相談支援におけるマッピング技法——ジェノグラム・エコマップ
7. 相談支援におけるエンパワーメントの意義

参考文献

早樫一男(2016)『対人援助職のためのジェノグラム入門』中央法規

八木亜紀子編(2019)『事例で理解する相談援助のキーワード』中央法規

岩間伸之(2008)『対人援助のための相談面接技術』中央法規

評価基準

■レポート評価

1. レポート課題が求めている要点をしっかり把握し、記述されているか。
2. テキストに書かれているキーワードについて、具体的に理解しているか。

■科目終了試験評価

試験は、上にあげた「学習要点事項」から出題する。テキストを基礎とした学習と「調べ学習」が進められ、理解が得られているのかを評価基準とする。

具体的には、キーワードや事項が正しく理解されているか、これらにもとづく事例を読み解いて判断できるかを評価する。また、マッピング技法については、事例を読み解きながら作図できることが求められる。

『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』加藤邦子・井原成男他(福村出版)

2019 年度～

科目概要

子ども家庭支援の意義と目的を理解し、保育の専門性を活用した子ども家庭支援の意義と基本を学ぶ。また、子ども家庭支援にかかわる体制を理解し、実際のニーズに応じた多様な支援の展開過程(インテーク・アセスメント・インターベンション・モニタリング・エバリュエーション・ターミネーション)とそこで用いられる技術、関連諸機関との連携・協力、地域資源の活用法、要保護児童等の支援、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児支援施設等における家庭への支援の実際についても理解を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子ども家庭支援と保育の専門性についての基本的学びをとおして、当事者およびニーズと専門的支援の在り方についての理解を深める。
2. 実際のソーシャルワークのプロセスとそこで用いられる支援技術について知るとともに、実践力を養う。

■ 科目の学習要点事項

各章でとりあげられているトピックについて、その社会的背景や理論的背景、概念定義などを丁寧に理解することを通して、簡潔な論述ができるように学習を進めていきましょう。それぞれの理解を深める過程において、派生的に官公庁の白書や統計データ、行政資料、新聞記事などについて調べ学習を進めることで、トピックに関係するソーシャルワークの展開過程について理解を深めるよう心掛けてください。

参考文献

大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編 2014『よくわかる子育て支援・家庭支援論』ミネルヴァ書房

日本子どもを守る会『子ども白書』(各年版) 森の泉社

F・P・バイスティック著 尾崎新訳 2006『ケースワークの原則―援助関係を形成する技法』誠信書房

北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編 2010『ソーシャルワーク実践の基礎理論 改訂版』有斐閣

評価基準

■ レポート評価

1. 課題内容を的確に理解しているか
2. 論理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点にもとづいて、評価する

■ 科目終了試験評価

テキストを基礎として参考文献などへの発展的学習が進められているかを評価する。また、上記に加えて論述の論理的展開や考察が適切かどうかについても評価する。

使用テキスト

配本年度

『新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会)

2014年度～2016年度

『改訂2版 新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』

新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2017年度～2019年度

『保育士養成講座⑦ 子どもの健康と安全』

新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2020年度～

科目概要

本講義では、保育に関わる専門家として子ども一人一人が健康に成長し順調な発達を遂げるために必要な保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育および生理的・運動的・精神的機能の発達について学ぶ。また、集団における保育活動において、子どもの健康を保持・増進するために必要な子どもの保健の基礎的知識、乳幼児期に起こり易い疾病とその予防策、遭遇しやすい事故と安全管理の基礎的知識を習得する。更に、保育所における保健活動の計画および評価について学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能の発達と保健について理解する。
2. 子どもの各期の発育、発達に応じた健康増進の意義を理解し、保育活動における健康増進の方法について考える。
3. 子どもの疾病とその予防法および適切な対応について理解する。
4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する
5. 子どもの健康に関する保健計画の作成手順および評価方法について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 子どもの発育・発達と保健
 - (1)健康の概念と健康指標
 - (2)身体発育と保健
 - (3)生理機能の発達と保健
 - (4)運動機能の発達と保健
 - (5)精神機能(情緒、言語、社会性等)の発達と保健
 - (6)子どもの健康増進と保育環境
2. 子どもの疾病と保育
 - (1)子どもの健康評価
 - (2)子どもに日常みられる症状
 - (3)子どもの主な疾病の特徴
 - (4)子どもの疾病の予防と適切な対応
 - (5)個別的な配慮を必要とする子どもへの対応

3.感染症の予防と対応

- (1)感染症の種類と特徴
- (2)感染症の予防
- (3)対策
- (4)予防接種

4.保育環境の衛生・安全管理

- (1)保育現場における衛生管理
- (2)保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
- (3)子どもの事故の特徴
- (4)応急処置と救急処置

5.保育所における保健計画の作成と活用

- (1)保健計画の作成手順
- (2)保健計画の活用および評価

参考文献

- ①「新 基本保育シリーズⅡ 子どもの保健」松田博雄,金森三枝編著(中央法規)2019
- ②「子どもの保健と支援」平山宗宏編著(日本小児医事出版社)2017
- ③「子どもの保健」第7版 巷野悟郎編著(診断と治療社)2018
- ④「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」小國美也子編著(日本小児医事出版社)2018
- ⑤「子どもの保健実習 すこやかな育ちをサポートするために」第3版 兼松百合子他編著(同文書院)2020

評価基準

■レポート評価

1. テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
 2. レポート課題の要点が適切に述べられているか。
 3. 自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
 4. 自分の考えと引用文献の内容と混同することなく表現されているか。
- ※以下のようなレポートは再提出となる
1. 所定の文字数を守っていないレポート
 2. ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート
 3. 他の受講生のレポートと類似しているレポート

■科目終了試験評価

1. 問題文の意図を理解し、要点が適切に論述されているか。
2. 用語の使い方が適切か。

使用テキスト

配本年度

- 『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—(第7版)』 2014年度～2016年度
飯塚美和子 桜井幸子 瀬尾弘子 曾根眞理枝 木村勝子(学建書院)
- 『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—(第8版)』 2017年度～2020年度
飯塚美和子 桜井幸子 瀬尾弘子 曾根眞理枝 木村勝子(学建書院)
- 『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—(第9版)』 2021年度～
飯塚美和子・瀬尾弘子・濱谷亮子(学建書院)

科目概要

小児期の望ましい栄養摂取と食生活は身体の発育のみならず、発達において重要な意義をもつ。本科目では小児期の栄養的特徴ならびに子どもの栄養、食生活を支援する保育者の役割を学び、子どもたちの食生活の基礎を築くために必要な知識を学ぶ。本科目に関連するガイドラインに目を通し、最新の情報を得ることを期待する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 栄養に関する基本的な知識が身に付く。
- 乳幼児期の心身の成長と栄養・食生活の関連について理解が深まる。
- 小児期疾患の特徴と食生活上の留意点について理解が深まる。
- 子どもを取り巻く食環境と食生活の問題点について理解が深まる。
- 子どもたちが望ましい食生活を実現するための知識と具体的な支援方法が身に付く

■ 科目の学習要点事項

- ・乳幼児期の発育・発達の特徴
- ・乳幼児期の食生活の特徴と食事の実態
- ・母乳栄養と人工栄養の特徴
- ・人工栄養の調乳方法
- ・離乳食の意義と、離乳食の進め方
- ・幼児期の栄養・食生活上の問題
- ・小児期疾患(発熱・下痢・う蝕・食物アレルギー等)の発症機序と食生活
- ・発育・発達に応じた食育
- ・児童福祉施設における食事と栄養
- ・保育所における食育に関する指針

参考文献

- ① 『幼稚園教育要領』(文部科学省)
- ② 『保育所保育指針』(厚生労働省)
- ③ 『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～』(厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長)

評価基準

■レポート評価

教科書・参考書の記述をそのまま転記し提出することは原則として認めない。課題に求められる内容を理解した上で必要な事柄を明瞭かつ簡潔にレポートを記すこと。表など、教科書、参考書等の記述内容を引用する場合は出典を明記すること。

レポートを評価する際の基準。

業務上の体験、経験に基づく主観的な内容やインターネット記事の転用等は不合格とする。

子どもの発育発達の特徴や食生活について、ガイドライン、関連法規、指針等を調べ、根拠に基づく内容を自分の言葉でまとめてあることが合格の条件となる。

■科目終了試験評価

業務上の経験や主観を記すのではなく、出題の意図に沿い、テキストの内容・用語・概念を正しく理解した上で解答すること

科目終了試験の採点基準について例を挙げて説明する。

「〇〇期の A と B について述べよ。」という設問に対し、設問に求められていない当該時期の発育発達の特徴を漠然と記しても採点の対象とはならない。A、B について、根拠に基づき正確な内容が記載されていることが、単位付与の条件となる。問題文を正しく理解した上で出題の意図に沿った解答を記すこと。